

関東氷上郷友会

昭和五十三年四月

第9号

山
々
々
々
々





渡辺紙工業株式会社

取締役会長 渡辺金三 取締役社長 岡崎一二郎

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号	Tel 939—1281(代)
東京支店工場	東京都足立区中央本町 5 丁目 22 番 12 号	Tel 887—6711(代)
" 関宿工場	千葉県東葛飾郡関宿町大字台町 2192 番	Tel 0471—96—1489(代)
東京支店営業所	東京都台東区柳橋 1 丁目 20 番 4 号<久月ビル 8F>	Tel 861—2331(代)
名古屋支店工場	名古屋市西区又穂町 3 丁目 13 番地	Tel 521—8111(代)
大阪支店 工場	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号	Tel 939—1281(代)
九州支店 工場	福岡市博多区堅粕 3—16—14	Tel 411—4237(代)



渡辺製袋株式会社

取締役社長 渡辺金三

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号	Tel 939—1281(代)
東京支店	東京都台東区柳橋 1 丁目 20 番 4 号<久月ビル 8F>	Tel 861—2331(代)
大阪支店	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号	Tel 939—1281(代)
藤岡工場	栃木県下都賀郡藤岡町内町 4938 番地	Tel 028262—3321(代)
兵庫工場	兵庫県加古郡稲美町蛸草 1438—1 番地	Tel 079495—0257, 0401

☆☆☆ おめでとう!! ☆☆☆

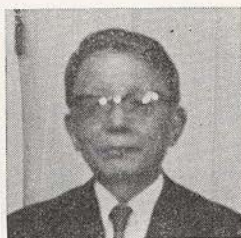
文化功労者・叙勲・祝寿

昭和五十二年度の総会は別記(三六ページ参照)の如く、財務報告、新役員を選出して盛大裡に終了したが、その席上、次の方々の榮譽が報告され、出席者一同拍手のうち本会から記念品を贈ってその功績を祝福した。誠に意義深い総会であった。

文化功労者 小谷正雄氏

理学博士、本会顧問、柏原町出身、現在日本学士員会員、東京理科大学の学長である。

表彰の理由は、分子を定量的に解明、分子の電子構造の量子力学的研究や鉄属イオンの電子状態の性質の解明など、物理学のあらゆる分野で傑出した業績をあげられており、今回の表彰はまことに郷党の誇りである。



勲五等瑞宝章 足立三治氏

本会会長、青垣町出身、現在つるや産業株式会社長

叙勲の理由は多年にわたって高級婦人服、子供服業界の発展に貢献した功績が、くいられたものである。



敬老祝寿者

生駒篤郎氏・高野康慶氏
堀川万次氏・安藤秀夫氏
塩見つるゑさん

五氏は本年八十歳の長寿を保たれ、いずれもご健康で、おめでたい限りである。今後とも御清勝を祈ります。

山ざる 第9号 目次

表紙画『水仙』……………常岡 文亀

おめでとう！……………1

文化功労者・叙勲・祝寿

空想の『郷土博物館』……………上山 顕……………4

少年のころの思い出……………奥谷 松治……………8

ふるさとの山やまよ！……………関 正治……………11

会長の教訓……………上田鉄太郎……………11

独白——陽だまり……………須原 松柏……………12

NHKで放映

三浦画伯の東大版画展……………13

旅に出て思う……………西川 政一……………13

アメリカの旅……………秋元多美子……………16

丹波の二つの顔……………松山 竹水……………18

コレヒドール島……………伴仲 信次……………19

働くことの喜びを！

会長 足立三治

新しい年を迎える毎に、私共関東水上郷友会では、よき古里を持つ丹波人として心のふれ合える最も思い出の多い「山ざる」誌が、皆様のお手元に運ばれて参りました。私は常にこの「山ざる」に深い関心を持っておられる関係者役員各位の御奉仕の賜と深く感謝を申し上げる次第であります。不況に明けて不況に暮れた一年を、皆様はどのようにお過ごしになりましたか。物質万能時代が、どのように多くの国民に強い心理的な問題を投げかけたか。そしてこの現実をどのように受けとめ、かつ対応しているかを考えざるを得ません。円高不況も一般社会人がどのような判断をしているか。日本が敗戦後三十余年の過程

五二年度総会／敬老祝寿	21
丹波総合開筵に努力	23
菊江・川柳帖より	23
製袋業界の長老・渡辺泰造翁逝く	24
泰造翁を偲んで	24
野村利吉さん逝く	27
囲碁同好会の記	28
氷上囲碁同好会成績	28
転居・転任	29
新入会	30
お便り・短信	31
関東氷上郷友会の沿革／会則	35
五二年度総会開く	36
役員改選さる	37
会費領収報告	37
会計報告	38
祝寿協賛金など寄附者芳名	39
本会役員	39
関東氷上郷友会会員名簿	41

を今こそ静かに一人一人の責任において、何
 がこのような社会的要因をもたらしたかを考
 え直す貴重な時が訪れたのではないでしょう
 か。私はどんな人間でも、例えば智恵が多く
 あっても、また強い行動力を持っていても、
 一人では決して生きられないきびしい現実を
 知るべきだと思います。そして皆が社会の一
 員として、働くことの真の喜びを可能にする
 正しい社会を創造するために、私共は老若男
 女一体となって、何事にも豊かなる心のふれ
 合う努力を、日常社会にまた職場に交友の
 場に、ふりそそぐべきだと信じております。

旧冬総会には古里から町長さん議長さんの
 多くの御臨席を戴き、また郷土が誇る知名会
 員の参加を忝うし、近來稀に見る盛況裡に総
 会を開催致し、第一回長寿会会員も列席さ
 れ、誠にめでたくのしい親睦交友の一日を
 過ごし得ました。ここに謹んで古里の御活躍
 される皆様と親愛なる会員各位の益々の御多
 幸を祈念致しまして私の御挨拶に致します。

空想の『郷土博物館』

上山 頭

(柏原)

アンドレ・マルローは、フランスの小説家・美術批評家、広東政府が樹立され北伐が開始されたころ身をもって中国革命を体験、スペイン内戦では航空隊の指揮者として実戦に参加、第二次世界大戦下対独抵抗運動の闘士、ド・ゴール臨時政府の文化顧問など、その経歴は幅広く多彩であるが、日本人にとっては、文化相としてミロのヴィーナスをわが国にもたらした人といえ、もっとも親しみ深いであろう。

このマルローに、「空想美術館」についての著作がある。たまたま本年七月、八月NHKの日曜美術館で放映されたところによると、マルローの美術についての形而上学ともいべきものを展開して、なかなか難解のものらしいが、要するに、遠い有史以前から近代に及ぶ長い人類の歴史を通じ広く世界の各地域に栄えた数々の美術作品のなかから思いのままに選んで、一つの美術館を作ること空想したもののみうだ。

また「芸術新潮」誌は、昭和五十年一月号から、山田智三郎国立西洋美術館長による「世界のオークションに選ぶ『空想の美術館』」を連載中である。ロンドン、ニューヨークなどのササビーとかクリステ

イズとかいう一流のオークションに豊富な資金を持って度々出張、毎月一点を選んで買うと仮定すれば、どんなコレクションが出来ようかという趣向のもので、その一点をカラー写真で紹介している。本稿の標題は、これらの例に倣った。

ヨーロッパでは、至るところの地方小都市にまで、郷土の歴史・文化を明らかにする美術館・博物館が設けられ、郷土愛、延いては祖国愛をはぐくむのにも役立っているとのことを、たびたび聞かされてきた。

私の短い西欧の旅でも、パリではモロー美術館、ロンドンではデヴィッド・ファウンデーションなど、比較的小規模なものも訪れたが、前者は、十九世紀フランスで異色ある幻想的画風をもって知られたモローの死後、その多数の作品が国家に寄贈されたもの、後者は、中国陶磁の鑑識では世界的に有名なデヴィッド卿が、その蒐集品をロンドン大学に寄贈したもの、規模こそさほどでないが、それぞれ第一級の美術館で、至るところに見られ得るものとは類を異にしている。

といって、あわただしい旅では、小美術館までとはとても訪ねきれないが、たまたま案内される機会もなかった。

先年ケルンの国際社会保障協会総会に出席の節、古来有名なその地の温泉を利用したリハビリ施設を見学のためアーヘンに赴いた。アーヘンは人口十数万に過ぎない小都市だが、カール大帝が王宮を営んだ古都で、案内された美術館は、規模こそきわめて小さいものの、古都にふさわしい遺宝を蔵しており、中世美術の一端をかいま見ることができた。



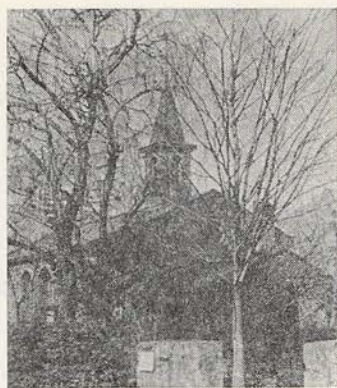
「ニオン城館」

もう一つ、こんな愉快な例がある。別の年ジュネーブでの日曜日、友人が車でローザンヌまで案内してくれた。途中レマン湖に沿う赤瓦屋根の美しい小さな町ニオンで、もと封建領主の城館であった建物に立ち寄った。ところでその建物は、あちらふりに数えて、地階と二階が歴史博物館、二階は治安裁判・刑事裁判の法廷、町議会、それに結婚式場に充てられている。そして三階は狭くなっているのだが、なんと拘置所に使われていた。この地はローマ時代に溯る古い沿革を有するとかで、博物館には、発掘された何本かのローマ時代の円柱が庭に並べられ、付近は古くからの陶磁の産地らしく新旧の品が陳列されていたのが記憶にある程度で、内容自体に格別興味を惹くものがあつたわけではない。ただ、時々三階の窓から顔を出しているという囚人の姿は遂に見られなかったものの、何もかもが一つ屋根の下に仲よく共存し、仰々しいところがないのが面白くて、いつまでも印象に残っている。

わが国でも以前から各地に、神戸の白鶴美術館・大阪の藤田美術館・京都の藤井有隣館のごとく、東洋美術の宝庫と称していいものがあり、倉敷の大原美術館も近ごろは有名すぎるほどだ。もっと小規模のもので、同じ山形県下米沢市に近い小松町

の掬粹巧芸館、上山市の蟹仙洞は、井上氏・長谷川氏という兄弟によってそれぞれ設立されたという珍しい例で、前者は陶磁が中心であるが世界的名品もあり、後者も元・明・清の漆芸ではわが国有数の蒐集である。ただし、以上いずれの場合も、蒐集の内容が所在地と格別ゆかりのあるわけではない。

ところで、昭和五十年八月催された「小山敬三画業六十年展」は、同画伯が出身地の長野県小諸市に、初期から最近までの代表作三十余点を展示する小山敬三美術館を建てて同市に寄贈、同年十一月開館されることとなったのを記念するためのものであつた。そして小山画伯が建設を思い立ったのは、フランスに遊学中、スペインとの国境に近いバヨンスという町で画家レオン・ボンナが町に寄贈した美術館を見たときで、いつかそのようなものを小諸にも建てたいとひそかに決意した青年画家の夢が、半世紀の後にやっと実現したのだと知り、深い感銘を受けた。建物は、東京国立劇場と同じ村野藤吾氏の設計で、こじんまりしたものが大変美しいそうだ。是非一度訪ねたいと思っている。同じ長野県下穂高町にある碌山美術館の方は、先年何かの機会に訪れたことがある。ロダンに学び彼をはじめてわが国に紹介したが惜しくも若くして逝つた萩原守術の、数少ない彫刻の全部がここに陳列されているとのこと。碌山は彼の号、穂高町は彼の生地である。それよりも、お隣の多紀郡篠山町に丹波古陶館がある。古物商中西尚古堂の店には、東京駒場にある日本民芸館の創設者柳宗悦がたびたび訪れており、民芸館の古丹波の蒐集は、おおむね尚古堂の倉庫にころがっていたもののなかから発見されたものだ、と伝えられている。古陶館は、この中西さんが多年の蒐積にかかる品々を展示するた



「篠山美術館」

め建設したもので、現在刊行中の世界陶磁全集で備前・丹波・信楽・伊賀を取り扱った第四巻には、図版ないし挿図として、同館所蔵の四十点以上が収載されている。

最近各地に県立等の美術館が続々建設を見ていることは、高度経済成長の余慶とでもいえようか。ただこれら美術館は、地元出身作家の作品蒐集には努力しているのが通例だし、現在建築中の山梨県立美術館がミレーの「種をまく人」を購入して話題となったような例外もないではないが、目下のところ、建物だけは立派でも収蔵品は貧乏で、展覧会場貸しに甘んじているのが一般である、との批評がむしろ多いようだ。私は昭和五十一年秋熊本に出張の節、その春開館したばかりの県立美術館に案内された。東京文化会館と同じ前川国男氏の設計になるすばらしい建築であった。たまたま「熊本の美術展」が開催中で、古代から近世までの熊本造形文化の流れを大観できて好都合だった。大半は県内からの出陳であったものの、館自体の蔵品は皆無のようだった。

またある年、別府の市街から空港まで陸路を車で行ったことがある。途中の杵築市で、海に面した高台に天主閣が聳えているのを見て立ち寄ることにした。再建された杵築城で、内部は郷土博物館になっ

ていた。付近からの各種出土品、旧城主等の用いた武器・武具の類、旧藩が生んだ数学者使用の計量具・計算具の類、郷土芸能の衣裳などが陳列されていた。近ごろ有名になっている「国東（くにさき）半島の寺々」の仏像も、一、二体は見る事ができた。

氷上郡にも一つ郷土博物館を建設するとなしたら、一体どんなものが出来るだろうかを空想した。

（郡内には多数の古墳が残存し、出土品も沢山あるはずだ。私も小学生のころ、生地柏原町大新屋（おおにや）の高見城山々麓にある古墳の穴——蝙蝠がすんでいて珍しかったが、そこにもぐり込んで、探険の気分を味った記憶がある。大新屋の鎮守新井（にい）神社境内にある薬師堂内から子持勾玉が発見されたのも、同じころのことだった。

まず土器・勾玉・刀剣などの出土品を揃えたい。

（青垣町にある遯身寺へは、中学時代いっしょに行軍で行ったことがあり、十数年前久しぶりに訪れたが、たまたまこの秋、同寺をも含めた「郡内史蹟巡り」に参加した。都から遠く離れたこの地にかつては一大伽藍が営まれたとは、容易に信じ難いであろう。本尊阿彌陀如来をはじめ、弘仁時代・藤原時代・鎌倉時代の仏像十二体は国の重要文化財に指定されているが、これらのために最近立派な収蔵庫が竣工していた。県の重要文化財に指定された仏像は三十四体、さらにその外、欠損著しいものを含め百体ばかりがある。いくら「空想の美術館」でも、本尊にまでお出まし願うことは遠慮しなければならぬまいが、手は欠けていてそれでいて大変美しいといった像が、いっぱい

立ち並んでいるのだから、しかるべきもの十体くらいは是非陳列したい。

③丹波焼本流の窯があったのは多紀郡立杭の地であるが、氷上郡内にも傍系として、春日町の大路焼、山南町の村森焼（宗太郎壺）、柏原町の大部谷焼があった。

丹波焼がこんなにすばらしいものとはじめて知ったのは、外ならぬ日本民芸館においてであった。いつでも何点かは展示されているが、たまたま、広い部屋に百点ばかり殊に初期の大きな壺が二十点ほど、ずらりと特別展示されているのを見たときは、全く庄倒された。帰省して柏原の地で見たいと思っても、丹波新聞社々屋内で若干見られる以外、個人蒐集家の特別の好意にまたなければならぬのが現状である。丹波焼を見ただけでも参観した価値は十分、とされるようなものにしたい。

④青垣町高源寺の弘巖和尚は禅画をよくし、富田溪仙などはつとに



「達身寺の仏像の一つ」

高く評価しており、人によっては白隠や仙崖にもまさるとするようである。東京の出光美術館は何百点という仙崖を蒐集し、その常時展示に一室を充てているが、ここへ来ればいつでも弘巖が見られるようにしたい。

⑤郡内からは、柏原藩の小島省斎その他の儒者、また数多くの名僧を出しているようだが、それらの遺墨もひとつおりは揃えたい。六歳で「雪の朝二の字二の字の下駄のあと」と詠んだ田捨女の色紙なり短冊も、もちろん一枚加えなければならぬ。

⑥丹波布は、われわれの祖先が長く愛用してきたもので、私の家でも前には座蒲団などを見かけたが、いつしか見られなくなった。日用実用品として使われただけ、減びるのも早いようだ。今からでも出ただけ蒐集しておきたい。

⑦現在柏原町出身または在住の作家として、みなさんにもおなじみ深い常岡文亀画伯・幹彦君の父子、同じく日本画に山本茂斗萌先生・中尾英武さんの父子、洋画では川端謹次さん、彫刻に磯尾健治（先代柏里）さん・同健一（当代柏里）さん・関口寛治さんの父子兄弟などを輩出している。彫刻には山南町出身の和田真澄さんも活躍されているようだ。さらに丹波布でも、柏原町の西垣和子さんが両三年来東京で丹波木綿展を開いて好評を博している。

これらみなさんの代表作を一堂に会せしめるだけでも、すばらしいことではなからうか。

⑧先年東京国立博物館で開かれた中国宋元美術展に、「一菴筆・中峰明本像・高源寺藏」が展示されていた。国の重要文化財に指定されている。丹波氷上郡志の巻頭写真で「国宝・普応国師画像」としてか

ねて存在は承知のものであった。同じ画像は、最近もやはり同館で催された元代道釈人物画特別展観の機会に見ることができた。かえって郡内在住者でも、ほとんど見る機会に恵まれていないのではなからうか。また、柏原町乗宝寺といえは中学校に通学の途次いつも見てきた寺院だが、そこには、やはり国の重要文化財の紫紙金泥法華経などがあり、ただし現在奈良国立博物館保管とのこと。これらの重要文化財も、年一回くらいは——たとえば正倉院の曝涼が行われる十月末から十一月初めにかけて、せめて一週間だけでも、特別展示されたいものだ。

そして建物は、重要文化財をも展示するにふさわしい構造設備と管理組織を備えていることはもちろん、第一級の設計者の手になる記念碑的建造物であってほしい。

以上で、私の「空想の郷土博物館」は終っていいわけである。ところで、私の想いはさらにそれ以上に広がり、建物の方は、小山敦三美術館の例ではないが、五十年かけてもという気なら大丈夫立派なものが出来上ろうとか、いや五十年も待っていては、陳列したいものはいくらでも郷土から流出してしまわないかなど、いろいろ気にかかることである。しかし、もともと「空想の」と名づけられた以上思いのままに空想をかげぐらすのが本領であって、それ以上の心配まで述べるのは余計なこと、まさに蛇足だとの評を甘受しなければなるまい。

(昭和五十二年十一月稿)

少年のころの思い出

奥谷 松治

(市島・戸平)

こくぞう山

わたしが少年時代をすごした戸平(とべら・市島町戸平)は山と山との谷間にある部落です。すこし大げさな方ですが「向うの山からこちらの山まで物干しざおがとどく」ような地形です。ひろびろとした地形に強いあこがれを抱いていました。

少年の頃、たこ揚げやこま回しなどの遊びにあきると「こくぞう山へ登ろう」と誰かがいい出すと遊び仲間全員が賛成しました。この山は北奥と戸平の境にある標高三五四メートルの小山です。山頂にこくぞう尊が祭つてあるのでそれが山の名になったのでしょう。地図にも出ていませんが五穀ほうじょうの仏として、農民の信仰があつく一月十三日の祭日には参拝者でにぎわったと聞いております。わたしの少年時代は最盛期をすぎて、参拝者の数もこくわずかでした。

こくぞう山への登り道は、北奥の正法寺の横からと、戸平の大地子坂からと二通りあります。戸平では祭日の数日前に道つくりの行事がありました。戸平とおげから登る道もありましたが、これはこくぞう山に石灰の出るところがあって、その原料石を石灰がまに運ぶための

道で石灰の製造が中止されてから廢道になりました。これはこくぞう山の土壤の性質を知る一つの手がかりとなります。

さて、こくぞう山の景觀の一つとして登山道の両側に樹令數百年を経たと思われる松並木がありました。北奥と戸平の申し合わせで松並木を保存することになっていましたが、雷に打れたり部落の必要などでつぎつぎと切られ、戦後全部を切ってしまったので、こくぞう山の景觀がすっかり変わりました。松並木があったころは風が松の枝に当たりたえず風音をたてていました。山の頂上に立つとすぐ下には上牧の人家が見え遠くには小富士の右肩をかすめて多田あたりまで見えました。福知山線を列車が走るのが手にとるように見えました。

焼 畑

農家では十五、六歳になると一人まえの働き手です。少年のころの思い出も遊びから農作業に変わります。田畑の作業は一般と同じですからさておき、ここではこくぞう山の入会地（いりあいち）での焼畑をとりあげます。戸平には鴨庄各村の入会地が千五百八反五畝もありました。入会地は文字どおり農家が自由に利用できる土地で、まぎをとおり、牛の飼料の草を刈り、そのほか堆肥（たいひ）をつくるための肥刈（こえかり）をするなどが一般の利用の仕方でした。田畑が少ない農家は入会地に焼畑を開いて食糧を補いました。

焼畑は入会地の中で土の肥えた（こくぞう山の西傾面、地名おくの谷）場所を選んで夏の盛りの頃（八月）二畝か三畝の草木を刈り倒し、乾くのを待って焼きます。焼畑の効果は土壤に熱をあてて有機質の分解を促し焼いたときにできた草木灰が肥料として役立ちます。

火入れをした後で直接大根種をまき、かんたんな開こん作業をします。ながく耕地として利用するものではありませんから雑草の根を掘り取るていどの開こん作業です。十日もたちますと大根種が芽を出します。密生しているところを間引き、間引き菜として漬物などに利用しました。

大根の出来ぐあいはその年の天候次第です。できのよい年は沢庵漬や副食用にも余るほどとれました。わたしの母は大変手まめでくずのような小さな大根もすてずに集めて家に持帰り、凍らない様に土に埋めておいて、雪の降る日などにとり出してうすくいちよう切りにしてむしろで数日干し、水分が少なくなつたのをせいろで蒸し、再びむしろにひろげて乾燥しました。乾燥するとあめ色になります。野菜の少ないときに味噌汁の実に使いました。切干し大根といって甘味があられ、味噌汁の味によく合いました。

焼畑の作物

焼畑の作物は、地方でそれぞれがいますが全国的にはソバ、アワ、ヒエ、ダイズ、アズキですが戸平ではヒエ、ダイズは作りませんでした。アズキの代りにツルアズキを作りました。ダイズは自給用としてたいせつですが、土壤の性質か、鳥や小動物の害がよく分りませんが作りませんでした。（沢村東平「焼畑農業経営方式の研究」開拓研究第二巻第二号と第四号、農業技術研究所報告、経営土地利用部第二号）。他の地方で作るが戸平で作らなかった作物は一年生作物ではヒエ、永年生作物ではクワ、コウゾ、ミツマタなどでした。永年生作物は焼畑は土地の所有権が個人になかったので作れなかったのです。

共有山林原野

の分割

焼畑の作物は自給
目的で商品にはなり
ません。たとえば焼
畑に作ったダイコン
は質が固くて、中
にはすこし苦味（にが
味）のあるものもあ
りました。

鴨庄村内共有

地の分割

共有山林原野分割為取換証

村 名	面 積	村 名	面 積
鴨 四 社	25反	小 多 利 村	1,565反
鴨庄村学林	188反8	梶 原 村	910反3
戸 平 村	1,617反	上 牧 村	1,187反9
戸 奥 村	2,592反	池 尾 村	585反5
喜 多 村	882反		
	1,015反	合 計	10,568反5

- 備考 1. 表題には明治41年4月とあるも、内容は明治38年3月15日の日付がある。
2. 面積は官反別と見込反別の2通りあるが見込反別によった。
3. 大正6年以前は村名に村の文字をつけました。

明治四十一年、鴨庄村内の共有地を分割して二部を学林に、一部を加茂神社用地として残し、大部分を鴨庄各村で分割しました。学林にはスギヒノキなどを植付けました。鴨庄村内の土地共有制度はかつて加茂神社の荘園であった時代の名残りで、これを各村に分割し、さらに各村の共有地を各農家の個別利用に任せました。こうなると焼畑のような利用効率の悪い利用方法からクワなどの永年作物に変えました。共有地分割の基準は各村の農家戸数をもとにして面積を割り出したものと考えられます（共有山林原野分割の為取換証）。

土地利用の方法が変わった直接の理由は、大正年間になって養蚕が盛んになり、焼畑利用から永年作物のクワ畑になったことです。

学林の設定

この共有地の分割で注目すべきことは合計七筆、面積十八町八反八畝を学林としたことです。植林した後の下刈りや手入れは各村の夫役（ぶやく）でまかさないました。戦後学林が伐採期になりましたのでこれを売り、学校の建築費にあてました。当時五十年後を見透した立派な見識であったというほかありません。



筆者紹介 奥谷松治さんは明治三十六年、現市島町出身である。昨年六月『聞き書・丹波の庶民史』と題するユニークな本（B6・三一九頁・価一、二〇〇円）を平凡社から刊行した著者でもある。この外にも『近代日本農政史論』の外協同組合関係の著作も多く、篤学の農学博士である。この庶民史は著者と同郷の人々で、各種職業に従事した二十一名から、生れ落ちた明治、大正、昭和にかけてのおよそ六、七十年の生涯にわたる生きざまを詳しくまとめたものである。

想像も出来ないような大家族制の中での、病氣と貧乏と闘いながら生きて来たわれわれの農村の姿が生きて語りだして感慨深いものを覚えさせられる。郷友会員には是非一読をすすめたい。（松）

ふるさとの山やまよ！

関 正 治
(山 南)

丹波はいまはなき母のふるさとです。

幼いころ、母や伯母たちに手を引かれて、二、三度訪れ、セミやトノボを追っかけたり、魚つりなどに夢中で遊んだことが、今もって私の記憶の中に鮮明に生きています。

つい先年、ふと思い立ってわが母なるふるさとを訪れたところ、降り立った国鉄の駅舎(谷川)だけが昔の面影を残していましたほかは、あの草深い片田舎にまでほとんど開発が進み、その変ほうぶりにただただ目を見張るばかりでした。

ただ幸いなことに、村をとり巻く四囲の山やまは昔と少しも変わりなく、いささかでも私の幼いころの思い出を取り戻すことが出来ましたことは、私にとつて大きな収穫でした。

ふるさとの山やまよ！



さとの山やまよ、いつまでも健在であれかしと祈るような気持で、何度何度もあとをふりかえりながら帰途についたことでした。

(七七・一一・四)

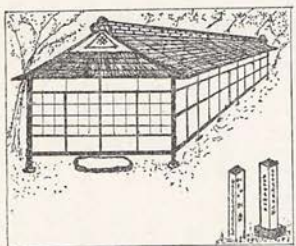
会長の教訓

上田鉄太郎

(春日・野山)

足立会長が「山ざる」八号に寄せられた一文の中の教訓を読んで感動致しました。私の永い人生経験を振りかえって見ても、若い会員の皆様、今こそ(チャンス)でお互いに頑張りを切りましよう。

さて私昨年末、会員に加入させて頂き会誌「山ざる」を見て大変に立派な多くの方々が社会で活躍しておられ、また大変に立派な会誌で興味深く拝読しております。実



教学寺のスケッチ

は私も郷里をはなれてすでに五十九年にもなりましたが、一昨年郷里にお祝い事がありましたので、久し振りに想い出の多い我が村の古寺をスケッチしましたのでご覧に入れます。

★松城小学校の歴史★ 松城小学校は明治七年に野山村の教学寺に初めて開校されました。文字通り寺小屋の様な学校であったと思います。通学区域は大崎、野山、天王、長見、新才であった様に思います。運動場は境内の空地を充て野山学校と呼び以後明治十二年九月に長見に校舎を建築され通学区域は山田、牛河内、新才、長見、天王、野山で長成小学校と改められたそうです。以後明治三十年六月に校舎を朝日村に建築され以来多少増改築されたのが現在の松城尋常高等小学校で私共が通学した想い出の多い懐かしい小学校です。以上が伝えられた松城小学校の歴史です。

独白——陽だまり——

須原 松柏

(市島・竹田)

二十七年間住みついたわが家の北隣りが主人の不幸によって売り払われ、買手の不動産屋は敷地一杯に二階建の鉄筋コンクリート造りのテラスハウス工事にとりかかった。

平家であったその宅の建坪よりも広かった庭のおかげで、北からの

採光も充分だったし、また四季おりおり変った鳥の往来と数々の草木の花は絶えることなく、特に三月下旬一本の桃に加えてそれに続く地主の屋敷内の数本の「染井」の大本が満開ともなれば、居ながら「花見」とシャレた情景を楽しんでいたのだが……

二階から西南遙かに見えた富士山も、先年ブームで建てられたマンションに皮肉にもスッポリ遮断され、視界から消えてしまった。

東北方に遠いわりに近く見受けられた新宿副都心の高層ビル群の姿も同然！

南隣りは幸い狭いながらも道を隔てて、平家が二三あるのみ（二階家へはかなりの距離がある）で目障りは少なく、引越して来た当時そのまま陽当り満点で救われている。

しかし、このお隣りの孫さん達、高校、中学への進学も近くなったようで、何時二階建に改築されるや？ ヒヤヒヤものだがわが身の余命に思いをいたし氣にしない。

四囲の風景は、ここ数年の間に、頓に悪化したはまだ樹木は多少残っており、近所づきあいも、二三（転居）を除いては昔どおりで気安すく（妻の言葉）また、交通便利な場所のわりに閑静なたたずまいは、もって冥すべきか？

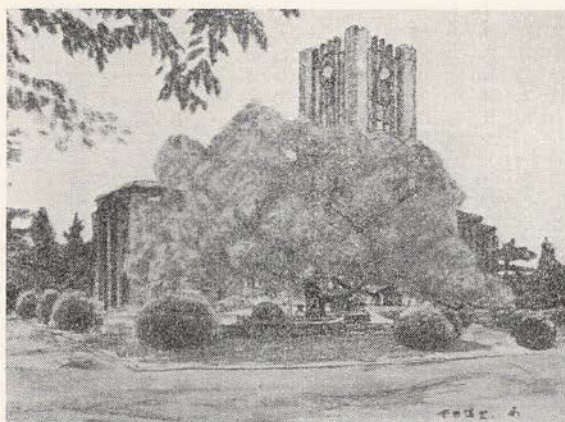
南北に風通しのよい家は夏涼しいとかで、冷房も年一二度くらいしか用がなかったわが家も、このたびの北方要塞で今後はどうなることだろう。

南窓からの暖かい自然の恵みを満喫しながら、「おとなり」は北側でよかったとホットしている。

(五三・一・一五)

三浦画伯の東大版画展

NHKで放映さる



春日町出身、水彩画画家三浦巖氏は「東京大学創立百年記念」として、東京日比谷の『やまがた画廊』においてさる一月二十四日——二十九日まで東大をテーマに石版画並びにスケッチ三十点を展示して、好評を博した。この画展は一月十八日朝のNHKテレビ「スタジオ一〇二」においても放映され、郷友多数もこのテレビ放映を見て同氏の活躍に拍手を送った。

(上は安田講堂)

《一水漫筆Ⅵ》

旅に出て思う

西川 政一

(市島・竹田)

△その一▽

(A) バンクーパー裏山からの夜景——

前年七月末のことバンクーパーでは現地の日商岩井事務所の配慮で、フェリーを利用して、ヴィクトリア・ブッチャート・ガーデンに行った。

花好きの者には絶大な満悦が得られる。——美花、珍花、一堂に集められて、花こそ常に人の心を和ませる。天城高原のベゴニア・ガーデンなど足許にもよれない程の大規模のものである。此処にはジャパニーズ・ガーデンなども大きな面積を与えられて、日本人訪問者を喜ばせることしきり。

ヴィクトリアを中心とするバンクーパー・アイランドもその発展ぶりには我等を驚かすものである。久し振りにフェリーボートの旅の楽しさも十二分に味わった。

翌日はバンクーパー最高のビル、シェラトンホテルの回り舞台に友人の招待を受けて、発展するバンクーパーの景色を語り合い、カナダの対日関係の将来もずい分時間を費して聞き入った。

カナダのブリティッシュ・コロンビア州電力庁の会長ボナー氏（大阪万国博当時すでに彼はカナダ代表として来日し、あの有名なカナダB・C州館の責任者であった）を訪問し、今更の如くカナダの偉大さを知った。カナダが原子力の燃料供給に対する偉大さもまた今後の日本に対する供給態度も充分聴取した。

神戸六甲山上から見る、かのミリオンドラーの絶景にも比すべきバンクバー・グラウス・マウンテンの夜景も忘れ難いものであるが、それにもまして一〇〇人乗りのケーブルカーも、となりを上下する五〇人乗りのそれと共に今以て我々の脳裡に深く刻まれている。

（B）カナディアンロッキーの雄大さ

バンクバーから、飛行機でカルガリーに着き、ミニバスに乗って次第に山奥にはいる。目標地のシャトー・レック・ルイズに着いてみると各国から観光客が娯集してその喧噪一方ならず。ホテルの地続きであるエメラルド色の静かな美しい大きな湖水、ここは喧噪に比して静寂そのもの、一隻のボートすら浮ばず、又その規模たるや日本アルプスや妙義山の絶景など足許へもよれない大きさである。

コロンビア・アイス・フィールドという言葉はかねて耳にしていたが、見渡す限りの万年氷河!! 解けては凍り凍ってはとけるこの偉観、我々は永久に清浄な世界におかれている心地。

友の言葉に従えば、バンクバーからエドモントンに飛び、此処からジャスパーに出てロッキーの峰々を眺めるのが、更に偉観を呈すると言うが、これは次の機会に譲った。エドモントン近くに行けば、ソ連の原子力飛行機が落下するかも知れない。剣呑々々。

（C）国旗国歌を尊重するアメリカ人

レック・ルイズをあとにバンクの絶景に別れを告げ再びカルガリーに帰り、空路トロントに向う。機上のロールパンのおいしいこと! もう半世紀以前になるが、学窓を出て世界中の小吏を勉強した自分は、勿論カナダのマニトバホイートのブルーテンが多く、美味なることを承知していたが、この機上のパンの味にはおどろかされた。

トロントでは近く移転するという新築中のビル of the highest階に上り、ミシガン湖に臨んだトロント市の景観を貪り望んだのち美しい植物園で少憩し、旧知の岡田総領事御夫妻の好意でランチを頂戴し、積る話に花を咲かせた。

シカゴの事務所はかの有名なI・O・Cのブランドン・ジャーンに初めて会ったホテル・ラサールがわが事務所の筋向いであるが、今は人の手に移り、新ビルの建築中であつた。私がバレーボールとの關係を深め、今日すでに三〇年間も会長をつとめているのはブランドン・ジャーンの言葉に動かされたことが多く、全く思い出の種である。シカゴオフィスのマネージャー大野君の案内で十何階かのホテル・ラサールのブランドン・ジャーンさんの部屋で語り合ったことが、今更の如く思い出されて感慨無量である。

シカゴにもニューヨークのロックフェラー・センターに比すべき広場があつて、そこには大きな日章旗がひるがえつてゐた。車まで見送つてくれたシテイバンクのミスターベルグランドに聞けば、日本から来た小生等賓客のために日章旗をひらめかしたとの話。アメリカ人は実に国旗とか国歌を尊重する国民であり、彼等が近頃の日本人の想像

以上にこれを尊重していることを痛感した。

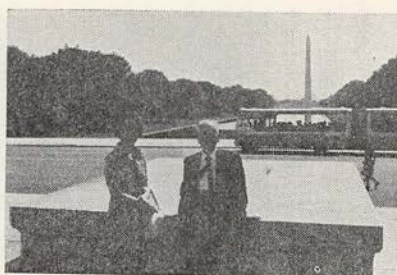
(D) ロータークラブの本部

私等はここまで来た以上、ロータリークラブの本部を訪れたいと思いい、車で約一時間の郊外エバンストンにその本部を訪れ、様々な活動状況を見聞した。今更いっても仕方ないことだが、等しく社会的サービスを中心としたロータリークラブ、ライオンズクラブ及びキワニスクラブの三者が、いずれもアメリカをその発祥の地とすることに深く考えさせられ、日本が積極的にすすんでこの種の事をやらないのでは世界の各地からエコノミックス・ニマルなどといわれても仕方がないと思つた。

(E) 若き日の思い出、

ニューヨークとワシントン

シカゴからニューヨークへ。ホテルビニールに少憩ののち、「車ずし」に案内されて舌鼓を打った。ある外人が「すしはニューヨークが世界一」と云つたそうだが、なるほど近海のフレッシュな魚を直ちに料理するので新鮮そのもの。冷凍、冷凍の東京とは聊かちがう。外人に威張られても仕方がない。もともとすしは日本の発明料理ながら……。



ワシントンにて西川夫妻

ワシントンでは、ホワイトハウスを中心とした数多くの記念館、記念塔などお上りさんの興味深く見学したのち、郊外のホテル・ウォーターゲートに入った。

翌日東郷大使を表敬訪問し、特に海外旅行の途にある我々を配慮されての特別ランチを準備して頂き、次に初代以来今日まで三代の大使の写真掲げた応接間に案内されて打ち寛いだ。

戦前、私をはじめ渡米した頃（一九三七年）の斎藤大使のお写真、或は戦争直前の野村、来栖両大使のお姿に接し、殊の外深い感銘を受けた。

飛行場はボルティモア。メリーランドの近くで、その広々した空港の思い出、更に私が交換船に乗る直前、ニューヨーク郊外エリスアイランドから移された米陸軍キャンプジョージ・G・ミードが、このボルティモアの近郊であつた事を思い出しまことに感慨無量であつた。

(F) 推進したい北米南部の開発

サンフランシスコは私の妻が戦争直前、最後の引揚船に乗る前三か月間二人の子供と共に不安な日々を送っていた処だけに、まことに思い出深い様子であつた。

翌日、モントレー半島のゴルフのメッカ、ペブルビーチその他へ案内された。ロッヂの前にゴルフのスタート場があり、翌日から全米選手権が行われると云うのでアーノルド・パーマーが練習のためにこれからスタートする直前と云う彼の勇姿を一目見んものと多数の米人が集つていた。何処も同じ何とやら、この辺の群集心理も想像以上である。今回我々は同行友人の都合でロスアンゼルスに行かなかつたので、



サンフランシスコからブランデー未亡人には電話で挨拶し、ブランデーさんの写真（胸像）は次の機会に頂戴に上ることにしたが未亡人が案外お元気で楽天的であるので安心した。

それにしても今回ロスに行かなかった事により、アリゾ

ナ州、テキサス州、ルイジアナ州など米国南部の開発が、特にエネルギー問題に就て、手おくれになつては大変だと深く心配している私である。

△その二△

ワールド・カップ 77 — 何が何でもの意気 —

私にとって昭和五十二年は意味深い年でもあった。というのは一九六八年のミュンヘンオリンピック大会で「ワールドカップ 77」を日本で開催することが決められた。以来八年間、わがバレーボール協会はこの大会成功のために全精力を傾けて「世界は一つ、コートは燃える」を合言葉にして準備を進めて来たのであった。

幸い天・地・人三者一体の実をあげて、大会はその年の十一月六日から開始され、同二十九日の東京決勝戦まで闘われた。全世界の強豪

男子十二カ国、女子八カ国の精鋭が参加、文字通り、東京、大阪を始め全国二十三会場を熱狂のうずみ巻き込んで大成功裡に終了した。

私はこの大会が終了したあとを省みて思うことは、われわれに課せられた大きな責任は、ますます加重され、従つて今後関係者一同が一丸となつて研究と努力を重ね、何が何でも世界をリードして日本のバレー王国を築いていきたい——このことである。

（日本バレーボール協会、W・C 77組織委員会両会長）

（写真は日本バレーボール協会より特別感謝状を受ける筆者。五二・一一・二六——協会創立五〇周年記念席上にて）

アメリカの旅

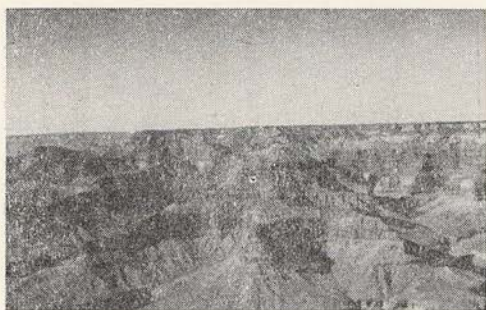
秋元多美子

昨五十二年十一月三日羽田を発ち、十二泊十二日の予定でアメリカへ旅行しました。

ブロードウェイをバスで走り、リンカーンセンター劇場、ニューヨーク立劇場などの大きな映画街やハドソン川畔等を走り、グラッド將軍のお墓に参り、ハーレム街の黒人貧民街から五番街を通り、百万坪といわれるセントラルパーク、メトロポリタン美術館、七十階建のロックフェラー財団センター（コロンビア大学に毎年二十一億円の借地料を払っていると説明されて大ビックリ）、国連本部、エンバ

イヤステートビル、チャイナタウン、世界貿易センター（一一一階、日本人ミノル山崎さんの設計とのこと）、それからウォール街に行き、マンハッタンを走り、海底トンネルを出てブルックリン橋を渡りました。ハドソン河の橋は世界一長いそうです。

バッファロー空港からカナダ領に入りナイアガラの滝を見ました。三分の二はカナダ領とのことでした。滝というものは高い所から流れるものと思ったら河の平らな処から流れていて幅の広いのに驚きました。



夜は十時まで七色の電灯の照明が輝やきとても美しかった。再びワシントンに入り、大理石像のワシントンを見、ホワイトハウス、赤十字本社、アーリントン墓地、それからケネディ墓地では生涯燃え続けている火を見て、アメリカ人は皆夫婦単位の国営墓地に眠れるのだと聞いて感心しました。

ワシントンからシカゴに行き、ついでラスベガスに着きました。文字通りの不夜城でネオンの素晴らしさに見とれていると、空港にも、ホテルにもギャンブルばかり。そういえば、ここにはギャン

ブルに如何に貰えるかという大学の講座に統計学科があるとのことでした。

ラスベガスからグランドキャニオンに向いました。広さは三百五十キロといいますが東京から静岡あたりまででしょう。砂漠の中に来たとのことですが断層面が二、五〇〇もあり、鹿やリスのんびりと歩いていました。

次にアメリカ第二の大都市ロサンゼルスに着きました。ハリウッドはさすがに有名で一万八千人収容出来る映画館や野外劇場など撮影所も多く散在しているそうです。

有名なディズニelandにも参りました。その巨大な規模に加えて人や動物の作りものが本物に見えるくらい精巧な出来にびっくりしました。一日かかっても見切れない位で、広いランド内をモノレールも馬車も走っています。

空路サンフランシスコに着きました。ここは半島の突端の町で、昔は随分栄えた港でしたが、今はカーフェリーのためにすっかりさびれているとの話を聞きました。この町で驚いたのはほんとうに坂の多い街で、電車もアプト式でした。

金門橋にも行き、それからハワイに飛び、数時間ののち東京へ帰りました。

ところで、こんどの旅行で感じたことを申しあげますと、第一にアメリカに着いたとき、こんな巨大な国と何故戦争をしたか。当時の日

本人は本当に自分を知らなすぎたと思つて感したことでした。

同じアメリカ国内に行くにも皆飛行機ばかりだし、国連本部の前で見ました戦利品の日本の零戦！ 本当に日本人として口惜しいの一言につきました。

また風船爆弾もありましたが、これも効果が判らなかつたとのことでした。

第二に、アメリカは歴史が浅いので歴史的に芸術的に見るものはないと思ひました。その点一昨年行つたヨーロッパの方がはるかに歴史が古いだけに、彫刻、絵画、美術などすべてが素晴らしいと感じました。

それにしても、治安も、食べものも四季おりおりの風景も、やはり日本がいちばんいいと思つて思つたことでした。

(写真はグランド・キャニオンの壮大な断層画)

丹波の二つの顔

松山 竹水

いま、わが出版業界に二人の丹波人が活躍して注目をあびている。そのひとりには二玄社々長の渡辺隆男さんである。彼は水上町朝坂の生れである。書画の出版やカー・グラフィック（月刊）の発行を続けているユニークな出版社を経営している。もうひとは、東京印書館の

社長の下中直也さんで、おとなりの多紀郡立杭町出身である。下中さんの父君は大手出版社・平凡社の創立者、下中弥三郎氏（現社長は次男の邦彦さん）である。東京印書館も弥三郎氏の創立ではあるが同氏の没後長男の直也氏が経営に当っているのである。

この両丹波人が最近手を携えて国際的大事業に着手しているのはまことに愉快至極である。

この大事業というのは台湾の故宮博物院の所蔵にかかる歴代中国の貴重な神品ともいふべき門外不出の名作名品書画の複製の事業である。

もともとこの事業を考えたのは二玄社の渡辺氏である。数年前から何とかしてこの珍宝され収蔵されているこれらの名画、名墨の複製を、二玄社の手で実現したいと地道に工作、交渉を続け、そのために幾度となく台湾に渡って故宮担当者の理解と承諾を得べく努力を重ねて来たのである。

その甲斐があつて昨年春OKの吉報が届いたのである。もっともその裏には東京印書館の製版・印刷技術水準の高さが評価されたことは否めない。

この二人の丹波人は故宮当局と出版契約調印のため前年の七月十日関係者を帯同、空路台北に飛んだ。一行は七名、その中には是非とも范寬（中立）の「谿山行旅図」をもう一度鑑賞したいと熱願していた常岡幹彦画伯（彼のことは会誌「山ざる」第七号常岡画伯・故宮誘拐記——渡辺隆男氏の文章参照）とともに、ぜひ一度訪れたいと考えて

いた筆者も参加した。

一行は台湾の関係者に松山空港まで出迎えを受け国賓ホテルに入った。

翌日は早速、二玄社より提出した第一次分として三十点上る唐・五代・宋時代の書画を複製する承諾書に契約調印した。

昼食は博物院側の招待を受け、午後から、右の三十点の作品を取り出して慎重に検討を加えていき、夕刻一旦作業を終ったが、この作業

は三日間続けられた。もちろん今回の作業はその十一月から一ヶ月におわたって行う本格的撮影作業の準備工程ともいべきものであった。

これらの作品の完成は今年十月ごろから、逐次完成し市販される予定とのことであるが、何分国際的事情から一品といえども海外の展示が不可能な今日、僅

かにこの二玄社の複製によって世界の愛好家や美術界に与える反響は大きなものがあると注目されている。今年十月には早くもユネスコの主催でパリにおける展示会が決定したという。

博物院当局との間に一切の協議を了えた渡辺、下中氏らの関係者は四日間の滞在で帰国してしまったが、常岡画伯と私はなお三日間居残って、画伯は故宮を訪ねたり、市内のスケッチに出かけたり、連日大活動が続けたが、今回は范寛の外に李思訓、閔同、荆浩、董源、李唐などの五代、宋代の超大作にも深く接して、自己の画風確立に大きな影響を与えるだろうと旅の効果を語った。

なお、常岡画伯は二月十三日より東京京橋の中央公論社画廊で個展を開き、台北の民家や円環や露店など十数点も展示、その成果を披露した。

コレヒドール島

伴 信次

(春日・多利)

先年マニラで催されたある会議に出席した機会を得てコレヒドール島を見学した。マニラの米海軍基地脇から水中翼船に乗り、約一時間コレヒドール島に着く。

この島はマニラ湾の入口の要塞の場所にありお玉杓子型の伊豆大島



武蔵野美術館前庭にて＝右から福島清・長谷川精一・汪繼武
故宮担当官・下中直也・渡辺隆男・鬼沢朝男の諸氏と筆者

コレヒドール島にて筆者



位もあろうかと思われる島であった。要塞というものを見たことのない私にとって「どてらいもんだなあ」と先づ度胆を抜かれた。

岩山をくり抜いて大きな長い隧道があり（大型戦車が裕にすれ違い出来る）このメイン隧道から枝状に左右に無数の隧道があつて、この枝隧道は兵舎・病院・其の他の軍用施設で何れも頑丈にコンクリートで構築されていて所謂難攻不落のかまへ。スペイン統治からアメリカの統治に引き継がれ永年に涉つて造られたものであろう。

更に山道を登るにつれて今度は至る処に日本軍が造つた高射砲の陣地があり、又艦砲射撃の盲点になるような処には鉄筋コンクリート造りの三階、四階建といった膨大な兵舎が破壊された当時のままの姿で至る処に見られ、この島に如何に多くの兵が収容され又守備に當つていたかも偲ばれた。

そして頂上近く進むと要塞砲の陣地が此処彼処にあり、何れも頑丈に築造され、地下弾薬庫から天井走行クレーンやトロッキで弾丸を運ぶ設備がされて居り、これらの要塞砲が一齐に火を吹いた攻防戦はどんなにもの凄いなものであつたらうかと想像するだに身の毛のよだつ思いがした。又頂上には世界で最大と誇つた大砲があつたが、この砲を撃つたら全島が震動したとかで結局戦力にはならなかったとのことで

あつた。

全島武装されたこの要塞島を攻略した日本軍の強さ、勇敢さにはホトホト感服した次第である。

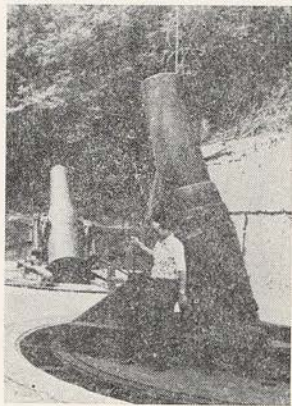
やがてマッカーサーの巻返し作戦でこの島を奪還されたが、その降伏調印？の場所が棧橋の近くにあり感慨も一入に見学した。

この戦蹟を訪れる人は多いが民家は見当らず、有るのは廃虚と化した軍の施設のみで、後日造られた戦争記念碑とその隣りに資料館があるが、謂うなればマニラでの立派な観光地の一つである此の島に小さなブラック建の売店が二軒あるだけで、そう豊かな国とは思えぬに日本の観光地と較べて国の姿勢でもあるのか、物売りの居ないのは大へん清潔な印象をうけた。

現在でも銃砲砲弾類が発見されて、これをザルに盛って売店にあるのを土産に求めて帰った。

戦争当時はおそらく山容も改まったであろうこの島、近くで見れば砲弾でえぐられた跡も随所にあるが、こんにちでは一様に灌木や雑草に覆われていて離れて眺めるとマニラ湾頭に優れた景観と風情を添える平凡な孤島であり、平和の有り難さを今更ながら深く感じたことを書き添えて駄文を擱く。

要塞砲



五十二年度総会出席者氏名（順不同一ページよりつづく）



祝寿者 生駒篤郎

高野康慶両氏の外

伴仲信次 小林武治

村上末吉 小谷正己

梶浦浩二郎 足立正

足立三治 植村章子

奥谷松治 有田喜一

畑秀夫 上田鉄太郎

安達葉子 藤原三郎

西川政一 小谷正雄

谷垣正雄 栗原重次

田英夫 足立かをる

永井常資 前田和市

植木伍鹿 和田菊江

須原清 佐々木盛雄

渡辺金三 近藤勇夫

松山幸逸 足立徹の

諸氏の外

郷里より 谷口務

柏原町長 中尾久雄

青垣町助役 足立一

郎同議長 石井敏秋水上町長 大田勝同議長 木戸山南町長 西山市
島町長など春日町長を除いて各町長らの出席を得た。

祝寿者のことば

第二回の敬老祝寿を受けられた方々のそれ／＼の感想を左記に掲げ、一層のご自愛を祈りあげます。（順序不同）

生駒篤郎さん

いたづらに馬齢を重ねて祝寿を頂く光栄を有難く御礼を申しあげます。旧小川村出身の後藤豊君が関西から鎌倉に転住することになり、旧柏中大正五年卒の同級生として、東京在住の梶浦浩二郎君と十月二十六日、神田学士会館で会食、懐旧談に時を忘れました。

高野康慶さん

敬老祝寿会にお招きいただきありがとうございます。

柏原を離れて五十年近くになります。毎年春に柏原高女十七回卒業生のクラス会に出席して、丹波の様子もうかがっていましたが、昨年は同窓会クラス会に出席、柏原に一泊、成松でのイチゴ狩りや篠山の丹波焼などを見学しました。

柏原辺りの変り方にただ／＼驚ろきました。

塩見つるゑさん

いつも送って頂だく「山ざる」をなつかしく拝見、故郷の山やお友

たちの事を憶い出しています。

私は大正の中頃、柏原女学校を卒業して結婚、東京へ来てから五十年にもなります。主人も達者で、娘夫妻と四人で、中央線西荻窪駅南口の方に住んでいます。

親しい方が次々に亡くなるのでとても淋しい思いがします。

堀川万次さん

天命が一生、青春の私には老人の行事は不向きです。

死から蘇生まで十八時間、さらに根治までの体験から、健康の根本は性と断言、不老腹上死の理想に燃え、日夜夫婦生活を楽しみ快感三十分、兆万長者の生活で今世で極楽幸福の絶頂にある。天下無敵の性豪、不死身の健康体、性一本で八十歳。

祝寿の秋深し

音無太美子さん（春日・黒井）

敬寿祝寿をお受けなさいます方々、誠におめでとうございます。高野先生には昭和六年卒業まで四年間、音楽を教えて頂きましてありがとうございます。想い出の歌の数々、六十の坂を越えた今も口ずさんでいます。

福知山寺町の水害時の事を、以前お話下さいました堀川さまおなつかしいございます。

他の御三方皆さまのお祝を受けられる和やかなニコ／＼顔が目に見えます。どうぞその和やかなお顔をたやさず、お大切に日本一の長寿を目ざしてお暮し下さいませ。

私もこの秋、長男の処へ同居致しまして、やさしい嫁と小二、幼稚園の孫とで、好きな書道などして幸せに感謝して暮しております。

——東郷の宮に祝寿や秋深し——

尚、左記へ移転いたします。

〒330大宮市三橋四—三七八—二 寓〇四八六—二四—〇七八八

須原清氏（市島・竹田）

小谷正雄博士の御受賞（五十二年度文化功労賞）の報に接し衷心よりお祝い申しあげ、ますます／＼ご健康を祈りあげます。

——香は生きて永遠に漂う菊日和——

ご挨拶

柏原町長 谷口 務氏

会員の皆様、ご健勝とご活躍のこと慶賀に存じます。

本日はまことにおめでとうお祝い申し上げます。

郷里も緑の自然に囲まれ、古きよきものを大切にしながら、新しい発展へと、それぞれに躍動をつづけております。

ふるさとへの変らぬご厚情、よろしくお願い申し上げます。

丹波総合開発に努力



水上町長 石井敏秋

関東水上郷友会にお招きをうけ出席させて頂き、故郷を遠く離れて、夫々に各界に活躍の方々の会、皆様御健勝、御同慶に堪えませんでした。

今は丹波も東京から飛行機を利用すれば三時間で、新幹線で五時間の距離になりました。自動車では全行程アスファルト、而も近舞線が出来ますと（もう四・五年もかかりませんが）専用道路と言ったことになります。福知山線の電化が、甚しくおくれておりますが、やっと目鼻がつけました。こんな丹波、皆様の古里ですが、常々町長会の方も御無沙汰申しわけなく思います。

水上郡も御承知の通り二十五ヶ町村が合併して、六ヶ町になって早や二十二年、成人の年になっていきます。広域行政の指定も受け、一方多紀郡とは丹波総合開発の連合体をもってお互の町の発展に、努力を致しております。

現在、世界的不況の波もかぶって、主幹産業の農業をする我々は、その影響もまた深刻なものがあります。米作を転換することも、これは当然と言いながら、夫々に深い悩みであり、兼業、零細農家の死活の問題として、真剣に取り組んでいる最中です。今、日本は通産、外務の両省を通じて、砲火なき戦いにある、認識のもと、将来への展

望に立ち、町づくりをと尽力しているのです。

各町毎に諸先輩への連絡もあることと存じますが、皆様の会合に出席させて頂き、これまでのことが、恥しく存じた次第でした。何とか皆様との連絡方法でもあればと思いました。ふる里をあとにされた方々に、皆様の機関紙「山さる」に投稿せよとのことで御座いましたので、充分意を尽しませんが、お詫び旁々皆様の御多幸を御祈しつつ。

（水上郡町長連合会長・水上町長）

菊江・川柳帖より

和田菊江

（春日町）

老星が一つ消えたとくに便り
すぎし日の面影もなき黒井駅
故里に住み家なけれど山河わが家
みそ汁の葱とりに行く霧のなか
田圃道たしかこの道バイパスに

—— 郷里をたづねて ——

幾とせか喜怒哀楽の社屋かな
立ち寄ればゴミもなつかしビルの前
我去りていとすかなり皆のいふ

—— 一玄社に長い間お世話になりました ——

製袋業界の長老

渡辺泰造翁逝く

わが国製袋、紙工業の発展に大きな貢献を遂げられた渡辺泰造氏は、郷里水上町朝阪の自邸で療養中、昭和五十二年五月十九日大往生を遂げられた。享年九十歳である。葬儀・告別式は同五月二十九日石井水



晩年の渡辺泰造翁

上町長が委員長となつて厳粛にとり行われた。

関東水上郷友会は多年翁が郷友会発展のためにご協力を致された事績に鑑み、ご霊前に電と生花を捧げご生前の感謝と敬申の意を表し、御冥福をお祈りした。

泰造翁を偲んで

芦田 確次

(春日町在住)

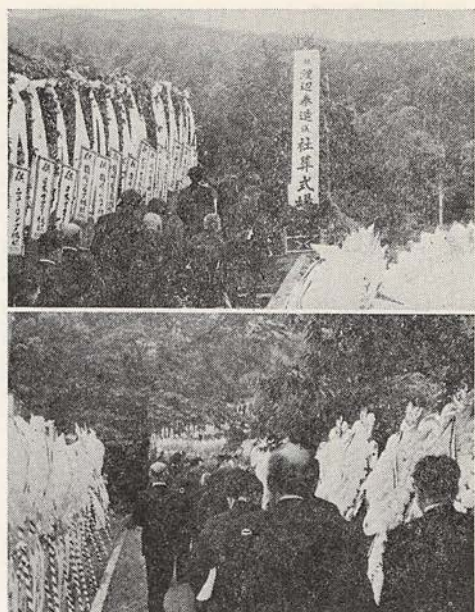
はじめに

渡辺さんが、日本紙製品工業統制組合連合会理事長として活躍されたのは太平洋戦時下のことで、紙加工業界を通じて戦時下の国策遂行に協力、尽粹された治績や、自社の事業拠点がある東京など他郷でのことは省略させて頂いて、翁の生前ご昵懇に願っていた折々に承ったことや、郷里水上郡に貢献されたあれこれを追想しながら、「渡辺翁について」『山さる』編集者の御指命にこたえたいと思う。

渡辺翁とは、関東水上郷友会副会長渡辺金三氏の先考で、渡辺紙工業株式会社、渡辺製袋株式会社その他を創設し、今日の大を成さしめた立志伝中の人であり、また愛郷の念すこぶる厚く産業、民生、文化などに数多く寄与し、郷民ひとしく敬慕した渡辺泰造翁のことである。

事業家としての道

翁は、昭和五十二年の初夏、水上町朝阪の自邸で、いわゆる功成り名を遂げて九十歳の天寿を全うされたが、生れは明治二十一年八月、もとの水上郡沼貫村小野・本庄栄太郎さんの三男である。十四歳で小



渡辺泰造翁の葬儀 (52.5.29)

学校を終えると同時に、村内で繊維業を営んでいる伯母の家に預けられ商売を見習うことになった。

その頃の沼貴村、とくに小野・朝阪地区には糸や呉服関係の卸・小売業者が多く、その商圏は県下はもちろん近畿全域、三重、岡山、鳥取県へも伸びて「小野の糸屋」と呼ばれ、進取の気概に燃えて業績をあげていた。生家も例外でなく、父と二人の兄によって盛業を続けていたが、二十一歳の明治四十二年に姻戚の同村朝阪渡辺源吉方へ養子縁組した。養家も呉服太物商で、翌年結婚し家業に精励したが、若いのに商才のある人と評判をとり、父に代って京都での仕入責任も持たされ、下男に呉服物を積んだ荷車を挽かせて遠く岡山県下から伊勢あ

たりまで遠出の日々だった。

しかし、てくてく歩いて旅宿を重ね、半年一年に集金して回るような商売では、これからの時代に取り残されると考えた翁は、父に家業を返上し、新しい事業を手がけることになって、選んだのが紙袋製産だった。明治四十五年のことである。

そのころ砂糖袋としてきわめて粗悪な紙でつくった袋が出回り始めていた。蚕を飼う時に使う蚕座紙と呼ぶ新製品の開発を行うこととなり、朝阪に小さな工場をつくったが、原紙の裁断から貼り仕上げまですべて手工業である。貼り工は近郷の農家の主婦や娘たちで家庭内職なのだが、需要がふえて大阪方面へ送り出す製品量は年毎に増大した。柏原駅と石生駅の運送店が、うちの店で扱わしてほしいと競争するようになったころ、個人経営から合資会社組織にし、大正十二年には株式会社渡辺製袋所に改組して大阪に支店を開設、十五年には柏原にある金沢製糸工場を買収して工場を移転、昭和三年にはドイツから新型の輪転製袋機を数機購入して業界の先鞭をつけ大量生産に成功、わが国の業界飛躍の口火を切るに至った。

そして、大阪に次いで東京、名古屋、福岡に支店並びに工場を新設、昭和十二年には朝鮮、台湾、満州、中国へも工場を進出させ、わが国業界のトップクラスに躍進した。日本一般製紙品工業統制組合連合会の理事長に推されたのは戦争が激化一途のころで、封筒からノートなどの小物までをふくむ紙製品統制組合の仕事は多様であったが、よく業界を統率して治績をあげた。

昭和二十年、終戦後はすべての公職、会社の第一線を退いて悠々自適、好きな碁を楽しんだ一時期があったが、漫然と過したわけではな

くかねてからの宿題だったクラフト紙を原料とする、俵にかわる農産物包装用大型紙袋についての研究を続け、成功にこぎつけた。社名を渡辺紙工業株式会社に改称したのを機に、再び代表取締役にもどり、全国の製紙、製袋メーカーに呼びかけて米穀用紙袋委員会を発足させ、その役員に推されて、政府に対し正式使用を強く働きかけ、遂に今日にみる全面使用に至らした最功労者である。

弱い者の味方に……

翁が、先見の明にすぐれていたことは、旧来の商法がやがて通用しない時代がやってくることを察して製袋を手がけたことや、米俵やカマスに代って紙袋が、取扱い、衛生、価格面で勝っていることを予知し開発に腐心したことでも知られよう。砂糖用紙袋から出発して粉や精麦など大型袋づくりを手掛けたのは、農家の豊富な余剰労働力を生かして、家計を助ける現金収入を増やそうとしたことももう一つの大きな狙いだった。また、単に現金収入を得るだけでなく、不時に備えて蓄積することの必要を呼びかけて、内職従事者らを中心とした貯蓄組合もつくった。それが順調に成長して、のちの信用組合となり共助の実をあげた。

「弱い者の味方に」この考え方は渡辺翁の処世であった。農村地帯である地区の水利改良のために佐治川井堰の徹底政策となえ、多忙な本業を指揮する一方、県や国に対し早期着手を要望して東奔西走、現在の貫和井堰が出来たのは、翁の尽力に負うところ大であった。また、終戦後の農地解放時には、地主代表の沼貫村農地委員に推され、郡内二十五カ町村の農地委員長で構成する郡連合会長に就任した

が、常に小作人代表ともいえる主張で終始し、他郡の混乱をよそに氷上郡がスムーズに解放、終結を見たのはリードよろしかった翁の人格と手腕の成果でもあった。

ねばり強くやりぬく

翁は、一たんこうと決意したら、ねばり強く徹底してやり抜く人だった。俵にとつてかわる大型紙袋に着目したのは昭和十年ごろからで、袋に入れても品質が変化せず、倉庫に積上げたり、運搬しても破損しないよう、また生産検査がやり易いようにするにはどうすればよいかと、自らも試し、プロジェクトチームをつくって指揮し、実に十数年を費して、これならという用途がつかんと、採用を農林省へ働きかける一方、欧米各国の農産物用紙袋を視察に出かけ、国内の製紙会社や紙袋を糾合して猛運動展開するなど、そのトップに立って動き、遂に昭和三十六年からは一部地域での試用が認められ、今日では全生産、加工米の容器として定着したわけだが、よそながら経過をみてきた私は、その根気、執念に頭の下る思いがした。この他こうした例はいくつか知っている。

文化・民生に貢献

氷上郡の文化、民生等に寄与された功労も大きい。昭和十五年に、丹波新聞社長小田嘉市郎氏と謀り、在東京の秋山徳三郎、石橋治郎八氏らと共に氷上郡関係者の英才教育のために財団法人氷上育英会を創設し、戦後の経済変動で有名無実化した育英会再建のために率先して巨額の財を投じ、多数の有能な人材を今も世に送り出している。これ

は、戦時下の大きな職場に青年学校開設が義務づけられる以前、渡辺青年補習学林を設けて従業員的一般教養向上をはかられた思想の延長ともいえる。

水上文化顕彰会も、翁の肝入りで活動し、松井拳堂著の『丹波史年表』『丹波人物伝』の刊行をはじめ、郷土関係の史実や植生研究の成果を世に出すなど、会長として不朽の業績をあげられたし、郡公会堂の建設や公共のための施設づくりにかわられた事例は数え切れない。長かった民生委員、司法保護司活動もその関心のあらわれである。

晩年は愛郷運動へ

晩年の渡辺翁が取り組まれたのは愛郷運動だった。渡辺紙工業、渡辺製袋両社の会長、社長職を渡辺金三氏ら三人の令息に譲ってのちは、水上町朝阪の自邸で好きな囲碁（日本棋院水上支部長）でもというのが普通だが、水上郡をもっと住みよい所にするにはどうしたらよいかという、遠大な目標を求めて柏原通いが続いた。ご存知の通り柏原は国、県の出先機関や郡の各種団体の事務所が集り、時には碁を囲みながら、また、好きでもない酒の席を設けて衆智をあつめ、自分なりの構想まとめに熱中された。

郡内外の関係者に呼びかけて水上愛郷会を組織し、故人となられた石橋治郎八さんの養蚕振興、佐々井信太郎さんの果樹園と養豚の講演会を催されたことがあった。『理想の水上郡づくり』論文を公募して、自治行政推進に役立て、発電関係の専門家と有志で、ひそかに山南町川代の水を利用する多目的ダム建設を組まれたこともあった。

郷土出身縁故者の宿泊等ができる愛郷会館や愛郷霊園計画がかなり具体化し、郷土の資料・図書館づくりの青写真もできかけていた。翁が、もっと健在だったら、それらの幾つかは実現したに違いないが、時間が足りなかったという外はない。翁はつねづね「私は四十二の大厄のころ、一度は死んでいたほどの大病をやった。それが今日まで生きのびたのだから、半分は儲けもの。その分を社会のお役に立てたい」と言っておられた。まだまだやってほしかった事は多いが、天命いかんともなし難い。

（元丹波新聞編集長）

野村利吉さん逝く

（春日・野村）

元宮内庁主膳監。昭和五十二年の七月二十四日午前九時、老衰のため東京都目黒区柿の木坂一ノ二〇九の自宅で死去、八十九歳。告別式は二十六日午後一時から自宅で。喪主は三男醇氏。

東大農学部卒業後、宮内庁に入り、庁内の料理関係の総指揮官である主膳監を永らく勤め、昭和二十七年退職。翌年、山階鳥類研究所の創設に参画、理事をしていた。ブドウ酒にも造詣が深い。

野村千里さんより謝状「過日夫野村利吉死去の節は郷友会よりお弔問を頂き、また皆様の御会葬を頂きましてありがとうございます。総会に出席して御礼申上げるべきでございますが郷里の方へ挨拶に参りますので失礼させて頂きます。悪しからずお許し下さいませ。

囲碁同好会の記

足立正(永上)

当会五十二年最後の例会は十一月二十六日

午後・市ヶ谷にある日本棋院の日本間一室を借り切り、落付いた雰囲気の内に行われた。

当日はおりしもNHKテレビ囲碁番組にて実況があつたプロ・アマ本因坊戦が、並びの一室で行われていた。

今回の例会参加者は十二名、三位までの入賞をめざし隣りの本因坊戦に劣らぬ激戦が続きました。結果は、優勝八勝一敗の藤田正雄さん、二位松山さん、三位川畑さんの順でした。

私が以前『山さる』に「勝率のよい藤田さんも私にはどうも勝味がない……」などと書いてから目の敵にされ、以来こんどは私の方が逆に勝てなくなつてしまつた。たが今回藤田さんの優勝で今後は手合が一つ上がるので楽になりそうだ。次回は白星をいただけるものとひそかに期待している。

又同好会の三沢先生に三子でお願いしまし

たところ、中盤までの圧倒的な優勢に楽観していたが、そこは強い先生の事、終盤近くすっかり後手に廻つてしまい、終つてみるとかうじて一目勝てたという始末でした。強い人の着眼点の違いに改めて感服させられた。

年間成績表

本会囲碁同好会の例会は、五十二年度は四回開かれたが、会場の都合で、十一月の例会以後は、市ヶ谷の日本棋院で行うことになった。

成績は次の通りである。同好の方はどしどし参加されるように歓迎している。会費はその都度、席料、茶菓代として一、五〇〇—二、〇〇〇円の外は入会金など一切要しませぬ。世話人の松山、足立両名に連絡下さい。

本年の例会

本年初の囲碁会は二月二十五日、市ヶ谷の棋院で開いた。出席者は十三名であつた。

囲碁同好会成績表

月	日	52—5/28	6/25	9/10	11/26
渡下	辺中	3—3	2—5	2—3	1—5
足川	立	5—1	3—5	1—4	0—3
土坂	畑	1—4	7—2	2—5	6—3
松	井	2—2	3—3	4—1	6—3
新	上	3—1	—	—	—
三	山	4—2	4—1	4—1	3—2
林	島	2—3	3—2	1—4	6—3
前	沢	2—3	1—3	4—3	2—6
小	谷	2—2	3—1	4—0	1—4
梶	川	—	3—5	—	—
藤	林	—	—	4—1	2—2
	浦	—	—	0—4	2—3
	田	—	—	2—1	1—2
		—	—	3—3	8—1

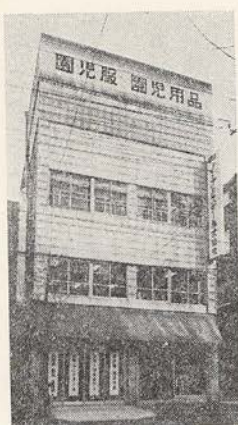
数字は左勝・右負

転居・転任

ノーブルスターKK 新社屋へ移転

スポーツウェアや事務服などのノーブル卸製造発売で最近著しく発展しているノーブルスターKK（社長吉住重造氏）は須田町の社屋が狭くなったので、さる昭和五二年七月二十七日左記の新社屋（鉄筋四階建延二二〇立米）へ移転、業務を続けている。（国電・地下鉄秋葉原駅より五分）

東京都千代田区東神田二ノ四ノ七
電話（03）八六六一九二二（代表）



有田名誉会長、 日本海運振興会々長に推さる

さる一月以来健康を害して、二月と三月とに入院生活を予儀なくされましたが、幸いにして経過良好、今は月一回ほど通院すればよいくらいに回復しています。

家でブラブラしているよりも、健康のためにもよいというので「日本海運振興会」の会長に推され、同会を事務所としております。

自民党本部にも、また都道府県会館にも近く便利なところですから、郷党の皆さん気軽にお出かけ下さい。

トヨーサッシ(株)会長

足立徹氏（青垣・東芦田）就任

四十年あまり勤めていた三菱商會社を五二年六月に退任して、七月からトヨーサッシ（株）取締役会長に就任しました。

勤務場所も「丸の内」から「葛飾区細田」に移りまして、友達に会うときなど不便を感じますが、トヨーの社員は若いし、元気がよいので大変愉快です。



表紙画家紹介▼常岡文亀画伯は明治三一年柏原町に生れ、東京美術学校日本画科を卒業、結城素明先生に師事、母校教授となる。その後文展審査員、大日本美術院同人、日展委嘱等日本画壇の重鎮として郷土出身画家の大御所である。帝展に「鶏頭花」及び「棕櫚」を出品、それぞれ特選「カンナ」は政府買上げの榮譽を受けた。さらにシンガポール総領事館をはじめ在外公館の作品を制作、世界的に知られる。なお文亀画伯の長男幹彦氏も父と共に日本画家として活躍している。

郷友会の会合にもごぶさたばかりで、何とも相済まないと思っています。これからは多分参加させて頂けると期待しております。

芦田 重秋氏（市島・上垣）五二年春より

東急建設（株）取締役に就任さる。

彼多 洋三氏（春日）東京都中央区銀座二

一〇一七大阪電気暖房（株）へ転任。

天野 清子さん（氷上・谷村）千260千葉市

柏井町一五二八電〇四七四一八五〇七

八五

長尾清三郎氏（氷上）千192八王子市館町一

〇九七・館ヶ丘団地第一街区五一九〇二

塚口 智也氏（氷上・油利）千980仙台市荒

巻字山中二二二三七

谷垣 一宏氏（氷上・棧敷）千665宝塚市安

倉中二二二二二

木内実喜夫氏（青垣・佐治）世田谷区若林

五一三七一二四NHK若林寮一一〇五

野村 嘉男氏（柏原）名古屋市区天塚町

一ノ三

小中 克己氏（市島）千300一2茨城県稲敷

郡牛久町牛久氏三〇八四一一電〇二九

八七一二二四二八

本下 五郎氏（氷上・石生）千215川崎市多

摩区王禅寺町二四四四ノ九一電〇四四

一九五四一六二二二勤務先 長崎大学

電〇九五八一四七一一一一

植木十和子さん 千332新座市野火止六一二

〇四一〇三三

荻野 完二氏（山南）千332川口市上青木五

二二一〇三三三

井本 義一氏（柏原）町田市能ヶ谷町一六

二六〇七電〇四二七三三四一五六一九

（小田急鶴川駅よりタクシー六分余、平

和台団地内）

田辺 美人氏（柏原）千273船橋市本郷町五

〇二一一二五〇六電〇四七三一一三

五一七〇八六

新入会

安井 三善氏（青垣・佐治）足立誠一氏

よりの紹介で新入会。本人はさる昭和十五年

四月上京。横山幸三社長の前身、横山商店に

勤務、同四十年都合により千代田区鍛冶町の

信州宝石に勤務在職十二年円満退職宝石卸メ

ーカー国内外販売小売業を初めました。

千270松戸市日暮八四〇一三二六電〇四七

二一八六二九二八ヤスイ宝飾自営。

坂本 重雄氏（旧姓中村。柏原）足立正

氏の紹介で新入会。本人は柏高三回（昭和二

十六年）卒業。十年前に東京より静岡大学に

転勤。近年都立大学への出講や研究団体の活

動で、東京へ往復することが多く、郷友の皆

さんとお逢いすることもあろうかと思いま

す。どうぞよろしく。

〒420 静岡市安東一ノ七ノ二三 電〇五四二
一四六一六〇〇八

荻野晴一郎氏（春日・国領）千葉県松戸市
河原塚一六五一四七

村上 昇氏（山南・村森）東京都中野区中
央二ノ四五ノ六 婚礼衣裳店

お便り・短信

（着順及び配列順不同）

芦田 律子さん（青垣・西山）

敬老祝寿の会、誠におめでとうございます。
八十四歳でいままなお元気で留守をしてい
る母を見舞って去る十月末より一週間丹波へ
帰って来ました。

ちょうど収穫の時季で、きり辛を掘ったり、
柿をもいだりの楽しい一週間でした。全身汗
して掘ったのですが「満足なのは一つもない
デ」と笑われたり「柿は一つだけ残してあと
はみなばいどくれ」と忘れかけていた感謝の
原点を教えられた気持ちでした。

祝寿の皆様、どうか元気で長生きして、い
ろいろと教えて下さい。

前田 和秀氏（柏原）ご長寿の皆様おめで
とうございます。健康に留意され、なお一層
のご長命をお祈りします。祝寿当日ごろ、九
州において日本救急医学会、および、四肢麻
痺患者に対する日本パラプレジア医学が開催
され、出席いたしますので悪からず……。
（自衛隊中央病院勤務）

大江 範子さん（東京）

神奈川県葉山におりましたが、主人の仕事
の都合で左記にあります。東京に住んで一年
あまり。葉山のよさをつくづく感じますが、
住めば都で東京もなかなか住みよい処です
ね。

尚、郷友会の中の柏陵同窓会員には印をつけ

るとか、御一考下さればと思います。

いつもお世話さまですが、葉山を引き払っ
たわけではありませんので、その儘にしてお
いて下さって結構です。

港区芝浦一―一―一七山田ビル六F 電
〇三一四五五―二〇四九

植木 伍麗氏（山南・和田）仏語や茶道の
教えに人に会う時は「もうこの人に会うのは
これが最後になるかも知れぬ」という気持ち
をもって会えと「一期一会」と教えている。

近ごろ老妻との話の中で、障子やタタミの
張換えをしても、知らず知らず何の抵抗も
なくこの詞が思い出される。いよいよ老境に
入ったのでしょうか。八十路を過ぎると誰も
が、何となく自覚し、彼岸への旅路の心構え
が生れるのでしょうか。

医師からは「何の病気もありません、年を
とり過ぎたのが病気でしょう」と薬も貰えま
せん。有難いのやらどうか、複雑な心境で
す。先だたれた先輩の残された「福」を買っ
て長生いたしましょう。

笹倉 強氏（西脇市） 郁子さん（西脇市）

相変らず音楽教育に努力しております。

十二月二十一日(水) 日本都市センターホールでモーツァルト作曲「レクイエム(鎮魂曲)」の演奏会を開きました。

由良 洋太郎氏(市島・梶原) 七十五歳になります。別にこれという身体異常はありません。野菜と花造りと、俳句で結構いそがい毎日を送っております。老妻は六十九歳。元気です。

西崎 祥さん(柏原) さる十月八日母校柏原高校の創立八十周年記念祝賀会に招かれ、恩師、先輩の方々に、私の舞踊を披露して参りました。また、前日の史跡めぐりに参加して、郷土の誇るべき文化財に接することが出来ました。美しい山々、実り豊かな田畑を眺め、よい故郷を持つている仕合せを感じました。

梶浦 浩二郎氏(揖保郡) さる十月八日の柏原高校創立八十周年記念式典に列し、同窓会の大懇親会に出席しました。コンクリート造りの四階の校舎が立ち並び、学校が大きく

立派になっているのに驚きました。その前日に有志がバスで郡内の石籠寺、達身寺、石像寺などを巡観しましたが、半日で観光出来る便利さに感心しました。

植村 章子さん(春日・船越) 七十五歳になりましたが、割合元気に過しております。丹精して菊も咲きました。実むらさきにヒヨがよく来まして、尾長もときとき見かけます。花水木が真赤に紅葉して、狭い庭を彩つてくれます。

この夏は丹波へ帰ってあちこちの墓参して来ました。昔のいわゆる船城田圃の中に工場が出来たりして、ちょっとガッカリいたしました。だんだんと自然が崩れていく感じがいたします。でもこれも発展のためには、いたし方ないかも知れません。

会員の皆様のご多幸を祈りつつ……。

畑 雅樹氏(市島) さる四月下旬、国鉄本社勤務の職員で兵庫県人会がありました。会員は約六十名でしたが、水上郡出身は二名しかいませんでした。淋しい気がしました。この県人会で最高の地位の職員は篠山出身の旅

客局長畑耕平氏で国鉄経営活動の高次元の立案者です。

大石 佐代子さん 戦中、戦後の混乱期に柏原高女に通学していた者です。この度クラスの方々のご尽力で三十年ぶりにお目にかかれ、また春には思いがけずも柏陵同窓会に出席出来、その上会誌にも接し、当時をなつかしんでおります。

木下 五郎氏(水上・石生) 一昨年末、脳卒中で関東中央病院へ入院、二百日余りである四月二十九日ひとまず退院、次来定期的に主治医の診察と指導を受けております。幸いマヒがなく日常の生活には支障がありませんが、足のむくみや肝臓の支障も残り、旅行やひとり歩きを禁じられております。

荻野 定一郎氏(春日・多田) 第二回敬老祝寿会並びに五十二年定期総会のご案内に接し、何とかして出席いたしたく存じておりましたが、当日友人の出版祝賀会もあり、私もその発起人となっており、あいにく祝辞を述べる方が急に病氣となって、私に代理せら

りたいとの要請があつて、その方に出席しなければならなくなつて、残念ながら欠席いたします。悪しからずおわびまで——。

高橋 博予さん(旧姓井本) 東京に移つてから十三年を迎えようとしています。そして郷友会のあることを知りました。敬老祝寿会のご成功をお祈りします。

志村 勝郎氏(柏原・屋敷) さる十月、柏原高校八十周年記念祝典に出席し、夜は三友楼で同級会をやり、約二十名が参会して三十八年ぶりにはじめて会つた者も多く愉快でした。

東後 一美さん(加西市) 満七十五歳。でも毎日元気で働いております。

田 敏夫氏(柏原) 日本人、いや人間として「ふるさと」があることは誇りであり、心のゆとりにもなる。私の家は祖父(田健次郎)の後を弟(田英夫)が継ぎ政界で活躍、父(田誠)の手がけて来た観光事業を、私が継いで日本のため、その発展に努力している。

永い海外生活の経験からも故国、故郷のバックボーンの有難さ、強さをしみじみ感じている。(日本交通公社旅行クラブ専務理事)

竹林 すま予さん(春日・国領) 八十歳になられた方の祝寿会おめでとうございます。わけでも堀川さまには郷友会初期のころから並々ならぬお骨折りいただいて深く感謝申し上げます。かげながら心からお祝い申し上げます。

足立 治氏(青垣・杉谷) 子供しかるな、来た道じゃ。年よりしかるな、行く道じゃ。ともかく、年金浪人にならぬよう頑張っております。

森田 淳二郎氏(多紀郡)・まさるさん(氷上・成松) 亭主が多紀郡、女房が氷上郡。よくある例です。次に亭主の趣味が園芸、女房のが生花、亭主が咲かしたり、剪定した小枝なりを活けるのが女房。まずは一つの幸福というものでしょう。

因みに、亭主は新緑院、女房は紅葉院なる自家製戒名をつくりました。少々「あの世は

なれ」の感がありますが……。

最上 治郎氏(美の部) 日ごろ健康には自信を持っていました。が、ごく最近になつて体調好ましくならず、医師よりも安静にしているようにとの注意を受けました。

やはり、年(本年七十一歳九ヶ月)かなと、残念に思っています。

田 健一氏(柏原) 国立長岡工業高等専門学校長として赴任してから八年目、むずかしい時代となりましたが、これからのわが国に大いに貢献できる様な新しい技術者の教育に打ちこんでおります。

野村 虎男氏(柏原) この春、随分久しぶりで、一泊でしたが、柏原、黒井、石生と訪れました。

氷上もすっかり建物から、見るもの聞くもの、みな変わって驚きました。丁度、桜が満開でしたし、気候もよろしく楽しい旅をして来ました。ただ時勢の移り変りで、明治乳業は酪農組合が冷却処理した原料牛乳を、明乳大阪工場へ送ることとなつて、柏原から退

陣するのが寂しい事でした。

常岡 昭氏（柏原）五十二年十月二十三日。

長男寛が帝国ホテルで結婚式をあげました。現在、東京慈恵会医大眼科教室に勤務しています。家内および次男薫（東京慈恵会医大大学部二年）ともに元気です。（眼科医師）

近藤 田治氏（春日、東中）さる四五年十一月に農林省を退官してから、財団法人全国食生活改善協会（会長は元農林次官、参議院議員）の常務理事として元気に勤めております。

内地各地を出張することも多く五十二年一月十八日—二十三日間アメリカ小麦生産者大会がハワイに開かれ出席しました。

木呂子 恵美子さん（春日）さる八月、三年ハケ月の香港から戻って参りました。日本、特に丹波の良さを再認識いたしました。今後ともよろしく。

瀬々 妙子さん（柏原）旧年、マイホームの計画をうきうきと洩してしまいましたが、

ようやく骨組みまで漕ぎつけました。七八年三月には引越し、四月から子供たちも新しい学校へ通い出すことでしょう。ローンをかかえて一体どうなることや、従って調度品はあと廻し。居間にくつろぐと云えばジュニタに座ブトンといった仕儀に相成るやも判ません。中古品大歓迎、物好きな方のアドバイスとともにお待ちしています。

亡父とゆかりのあった高野さまの祝寿、心からお喜び申し上げます。

松本 金吉氏（柏原）ナンということもないのですが、出かけるのがオックウで、会合は失礼しております。皆様のご健勝さんはいつも驚ろいております。

小山 正二氏（春日・黒井）総会のお招きを受けましたが、東京出張の機を失いましたので、今回は残念ながら欠席いたします。さる十月二十九日（土）京都嵐山の錦亭で関西郷友会総会が開かれ、郡内各町長を招き出席者四十名、なかなかの盛会でした。（宝塚在住）

芦田 担氏（青垣・芦田）数年ぶりに墓参のため帰郷しました。青垣町の宝林寺の墓の下にトタンの防壁が築かれているので、何故かと聞いたら、山頂から猪が猪突猛進して来て、墓下の竹林の竹の子を堀り返したあげく、墓石まで倒すので猪の進路を防ぐために設けたものだと、お寺さんには気の毒だが、この程度の自然公害はあってもいいなと思つたことでした。

☆ ☆

☆

☆ ☆

☆

☆ ☆

関東氷上郷友会の沿革

本会は明治三十九年（一八八六年）十一月二日、東京神田の料亭において創立の発会式を行なったといわれる。

当時東京帝国大学の学生安藤広太郎（後の農学博士）、同田昌（後の大蔵次官）氏らの奔走によって結成、会長には旧柏原藩主織田信親子爵、副会長に田健次郎男爵（元台湾総督）が就任。会の目的は、東京における郷土出身者の親睦と友情を深めるとともに、郷里氷上郡の開発発展に寄与することにあつた。以来七十余年、幾多の曲折を経ながらも今日まで存続し得たことは、先輩各位の郷土愛のたまもので、とくに井上雅二、矢本平蔵、小谷哲、石橋治郎八氏らの功績を逸することはできない。

昭和二十八年一月二八日、東京新橋駅楼上の「日本食堂」で戦後第一回の「氷上郷友会」が開催された。百名を超える郷友が喜々として集い、戦中、戦後の飢餓と混乱、生死を生き抜いた郷友たちが、相擁して久闊を叙し、熱っぽい雰囲気であつたとや、ありし世代の苦

闘を語る感激の大会となつた。

田健次郎会長（昭和五年没）のあと久しく空席であつた会長の椅子は織田信大子爵、安藤広太郎農学博士とひきつがれたが、この歴史の大会において石橋治郎八石橋生糸社長を会長に迎えた。石橋会長は以来十八年間の長期に亘つて郷友会発展に腐心され、昭和四十六年八月、八三歳をもって逝去された。本会は昭和四十六年十一月、つるや産業社長足立三治氏を会長に迎え今日に至っている。

関東氷上郷友会会則

（名称）

第一条 本会は関東氷上郷友会と称する。

（目的）

第二条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて郷土の発展に資することを目的とする。

（会員）

第三条 本会は氷上郡出身者及び縁故者を会員とする。

（役員）

第四条 本会に左の役員をおく。

名誉会長 一名

顧問 若干名

会長 一名

副会長 若干名

常任理事 若干名

理事 若干名内二名会計担当

監事 二名

（役員の仕事）

第五条 会長は本会を代表し会務を統轄する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは副会長の互選により一名がこれに当る。常任理事及び理事は会務を執行する。監事は会務及び会計を監査する。顧問は会長の諮問に応じ本会の発展を促進する。

（役員を選出）

第六条 会長及び役員は総会において選出する。

顧問は理事会の推薦により委嘱する。

（役員の任期）

第七条 役員の任期は二年とし、重任を妨げない。

（役員報酬）

第八条 本会の役員は総て名誉職とする。

（会議）

第九条 会議は総会と理事会に分ける。

総会は毎年一回十一月に開き必要に応じ臨時総会を開催する。理事会は会長、副会長、常任理事及び理事を以って構成し、必要に応じ会長が招集して開催する。

(会費)

第十条 本会の会費は年額金一〇〇〇円とする。

別に必要に応じ理事会の決定による額を徴集することができる。

(寄附金)

第十一条 寄附金は理事会の承認により受納する。

(会計報告、会則の改正)

第十二条 本会の会計年度は毎年十月一日より翌年九月三十日迄とし、会計報告は十一月の総会において行なう。
本会則の改正は総会の議を経て決定する。

☆

☆

☆

☆

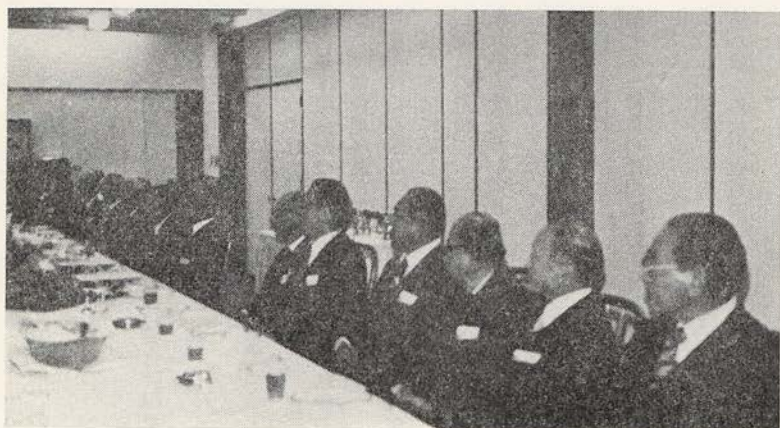
五二年度総会開く

昭和五二年度総会は十一月十七日午後五時から東京原宿の東郷記念会館宴会場で開催。

この日は叙勲を受けた足立会長、有田名誉会長、文化功労者小谷正雄博士、長寿者のうち高野、生駒両氏を始め四十名、この外郷里から珍しく四町長議長らもわざわざその日の会に参列され加えて、参議院議員田英夫、元代議士佐々木盛雄、足立徹、奥谷松治氏らの珍しい顔もあって賑やかな会合となった。

会はず渡辺副会長の開会の辞から始められ、足立会長から榮譽を受けられた方々(本文一ページ参照)を紹介し、拍手裡にそれぞれ記念品と有田名誉会長揮毫の色紙を贈呈、ついで議事に入り、伴仲副会長の経過報告、会計報告、役員改選(別記)を行って無事終了。ついで懇親会に入り、西川政一氏の音頭で乾杯、前田和市氏の司会でそれぞれ珍しい出席者や、地元町長らの発言が相つぎ懇談を重ねたあと同九時ごろ和気あいあい裡に散会した。

昭和五二年度定期総会スナップ



夏の「山ざり」会 五二年八月五日、東京
五反田の卸売センター内のコックドールで
「山ざり」批判の会が開かれ、足立会長ら三十
名が出席、第9号会誌の強化策その他につき
種々懇談を重ねた。

柏陵同窓会総会 関東における柏陵同窓会
は五二年六月十一日東京原宿の東郷記念会館
で開かれ、有田支部長外約四十名出席、なご
やかな懇親を重ね、夕刻散会した。

役員改選さる

新理事に六名

昭和五二年度総会席上に於いて選任され
た。新役員は次の通りである。この中には参
議院議員田英夫氏を始め六名の有力会員が新
理事に迎えられる、役員陳の強化が計られた。

新役員氏名 田英夫 足立徹 上田鉄太郎

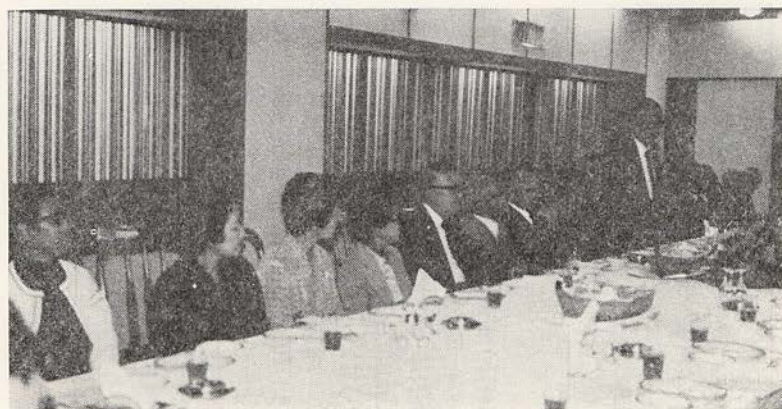
芦田律子 山本清士 吉住重
造

会費領収報告

(自昭和五二年一月
至昭和五三年二月)

52年度分 足立正 谷垣正雄 須原清 小

谷正雄 前田和市 常岡幹彦 同文亀 渡辺
金三 同幸子 足立誠一 足立三治 植村章
子 中山一朗 竹村政雄 柳田定 芦田律子
村上善英 同夫人 新島仁吉 東田実 村上
豊 有田毅 三浦成夫 高桑良弥 上田譲
若栗すぎ子 加藤信太郎 藤本久一 和田菊
江 上田三四二 磯畑修 大地富美子 足立
石蔵 柿原庸 東後一美 原功 広瀬広太郎
土屋タイ 赤松タツ 小寺忠夫 三崎復造
西山敬次郎 斉藤俊一 波多洋三 同道子
田辺輝一郎 萩原庸三 奥谷松治 芦田留治
高野康慶 藤尾ちあ子 中村正之 森田節子
足立輝夫 前田和彦 莊克衛 小野千恵子
西山謙三 谷垣博 中野周子 植木英吉 同
十和子 大野渥子 荻野完二 高松常太郎
村上末吉 永井常資 高見秀史 畑義博 安
達陽一 大槻作治郎 曾我部昭 下中昭男
松本金吾 宮城あつ子 竹林すま子 菱田ふ



み子 近藤勇夫 音無太美子 坂本重雄 小

糸イキ 安原美智子 笹倉強 荻野哲男 山
 本徳治 樺田広子 梶浦浩二郎 正呂地群治
 山本三郎 山本清士 高見安亮 植木一夫
 村上大憲 荻野武 安達健一郎 田敏夫 余
 田喜重 中山昇 大江範子 阿部すみ江 安
 達あつ子 足立昌彦 芦田坦 天野清子 村
 岡卓 豊島幹雄 大石佐代子 小中克己 足
 立葉子 有田喜一 藤原三郎 田英夫 辻安
 左衛門 近藤田治 永井輝江 小谷寛治 林
 谷集 藤田かね子 室井和代 池上碩郎
 53年度分 植木伍鹿 小谷正己 足立玉治
 近藤勇天 土田直吉 近藤敏雄 袴塚節子
 山本忠 足立要 足立彊 足立幸夫 足立徹
 上田正己 村上末吉 足立正 植村章子 奥
 谷松治 梶浦浩二郎 荻野完一郎 伴仲信次
 芦田律子
 50・51年度分 小田利江 古川悦子 横山
 幸三 上田正己
 51年度分 下中昭男 芦田勇秋 野村虎男
 由良洋太郎
 51・52年度分 瀬々妙子 畑雅樹 畑正義
 白滝勝康 千種倫幸 足立治 尾上典世 景
 山正吾 古藤一 小西甚左衛門
 51・52・53年度分 高見嘉津司

49・50・51年度分 三宅博
 50・51・52年度分 井本義一
 52・53年度分 坂上勝郎 上田鉄太郎 秋
 山一男 小寺確郎 松山幸逸 畑秀夫 横田
 公子 芦田有功 同裕子 児玉安正 木村つ
 たゑ 足立かをる 村上善英 安井三善 中
 島義則
 53・54年度分 勝野きしの
 52・53・54年度分 西川政一
 49・56年度分 小林武治

祝寿協賛金など

寄附者芳名(自昭和五二年二月
 至五三年一月)

〔山ざる賛助広告を除く
 順序不同、カッコ内は金額〕

上田鉄太郎(二回・二〇、〇〇〇) 光山秀
 子(二〇、〇〇〇) 小林武治(二回・一五、
 〇〇〇) 西原のゑ、高野康慶、生駒篤郎(各一
 〇、〇〇〇) 谷口柏原、石井永上、西山市島
 木戸山南各町長(各六、〇〇〇) 荻野定一郎
 田季晴(各一、〇〇〇)、畑秀夫(三、〇〇〇)
 足立三治(三〇、〇〇〇) 村上末吉(五、
 〇〇〇)(財務担当小谷正己扱)

本会役員(順序不同)

顧問 荻野定一郎・生駒篤郎・西川政

一・小谷正雄・上山 顕・小林

武治

名誉会長 有田喜一

会長 足立三治

副会長 渡辺金三・伴仲信次・松山幸逸

監事 竹村政雄・須原 清

理事 横山幸三・永井常資・山中一朗・

村上末吉・前田和市・荻野 武・足立 正・

小谷正己・植村章子・足立誠一・木村つた

ゑ・常岡幹彦・高見嘉都司・田辺輝一郎・

村上大憲・足立かをる・林谷 集・足立治・

谷垣正雄・渡辺隆男・栗原重次・田 英夫・

足立 徹・上田鉄太郎・芦田律子・山本清

士・吉住重造

会費についてお願い

昭和五十三年度の会費は金一〇〇〇円
 です。会誌にはさんである振替用紙をこ
 利用の上、ご送金方お願い申し上げます。

財務担当理事 小谷正己

会員各位

自昭和51年10月1日
至昭和52年9月30日

昭和52年度 会 計 報 告 書

関東水上郷友会

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	摘 要	金 額	科 目	摘 要	金 額
繰 越 金	前期より 現金 振替貯金	397,101	出 版 費	山ざる8号製本, 印刷, 外語掛700冊	360,825
会 費 収 入	171名	214,500	通 信 印 刷 費	総会, 役員会, 通知書印刷送料外	54,230
広 告 収 入	会誌山ざる8号広告掲載料 36名	290,000	支 払 手 数 料	振替貯金払込手数料 70件	7,080
総会会費収入	5,000×25名	125,000	総 会 費	51.11.13. 於東郷記念会館会場費 及食事代	109,850
賛 助 金	長寿者御祝基金会長外9名	129,000	会 議 費	52.2.4. 役員会会費御集額 48,000 会食費用 68,600の差額	20,600
寄 付 金	赤松たつ, 上田鉄太郎, 光山秀子, 荻野定一郎, 畑秀夫, 田季晴, 小 林武治, 西原のえ, 畑秀夫以上9氏	72,000	長 寿 者 祝	長寿者祝銀杯代14個 @16,000	224,000
			慶 弔 費	長富千代一, 近藤林蔵, 荻野英夫, 渡辺泰造, 以上4氏死去花輪代	34,000
			雑 費	丹波新聞新年広告掲載料 10,000 外消耗品諸費	27,450
			繰 越	次期へ繰越現金 振替貯金	389,566
合 計		1,227,601	合 計		1,227,601

あと

がき

▲前8号の発行がおくれたので、この号は出来るだけ早目に！と思って原稿の手配にも気をつけていたが、結果はあまり早くなかったようだった。原稿料を支払うわけでもなく、忙がしい人々だから無理がいえないし、編集者の泣きどころである。苦労はつきものとあきらめて努力するしかないだろう。

▲さて、この号、上山顕さんから、「空想の郷土博物館」という興味深い内容の原稿が届けられた。「空想」に終らせるにはあまりにも惜しまれる、すばらしいアイデアである。年月をかけ、広く賛同を得れば必ず実現の可能な価値ある文化事業なのだが——。上山さんは「やきもの」や美術鑑賞にも一言の持主である。その上日本ばかりでなく、外国の美術品などにも精通されているので、貴重な文章である。ぜひ読んでもらいたいと思う。もう一つ、奥谷松治さんからも少年時代の「ふるさと」のことを書いていただいた。篤学の士が郷友の中にもいることを知ってもらいたいし、奥谷さん以外にも多々おられるはずだから、次号以下にも登場していただくよ

う努力したい。

▲さて「山ざる」も次号は第10号を迎える。十年ひと昔というコトバがある通り、会誌も十年を迎えるまで続けられたということは、賞められていいと思うが、今日まで続けて来られた最大の理由は、郷友の皆さんのご協力と、制作費を支援して頂いたスポンサー各位の協賛がなければ3号あたりでダウンしていたはずである。ここにあらためてスポンサーの各位と会員の方々に御礼を申し述べたい。

▲先ごろの総会席上のスピーチでも、もと若い層の会員の出席が望ましいという発言があったが、この種の会には一種の宿命のように、とかく老壮年の出席率が高いが、若い

「寄稿を歓迎します」

本年末までにどうぞ!!

会誌「山ざる」第10号の締切りは昭和五十三年十二月末日といたします。発行は五十四年三月末ごろとなります。

随想、随感、身辺雑記、紀行文、ご意見、ご提案何でも結構です。お気軽にご寄稿をお待ちしています。(編集委員会)

層には魅力が薄いようである。何とかその辺の打開には会をあげて努力しなければならぬ。そのために皆さんから『郷友会』や会誌をどう発展させるかというご意見や提案をぜひ次号の「山ざる」10号で発表してもらいたい。——特集としてやりたいと考えているので今後よろしく願います(竹水)

山ざる 第9号

昭和五三年四月一日印刷

昭和五三年四月五日発行

編集委員

松山幸逸 足立 正

荻野 武 常岡幹彦

渡辺隆男

発行所

関東氷上郷友会

東京都千代田区飯田橋二丁目九番三号

春日建設株式会社内 〒102

TEL東京〇三(264)四〇一(番代)

振替番号 東京 一一二二三三〇番

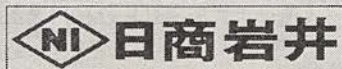
制作 株式会社 二玄社



ある国には 資源がいっぱい埋っている
ある国には 技術があるという
また ある国には……

世界は 別々に豊かさをもっている
日商岩井は そんな1つ1つの豊かさを
結びあわせることで より大きな豊かさを
実らせたいと 考えています

明日のゆたかさを考える



建築材料販売工事

建設大臣登録（般）51 第 1834 号

中央建材工業株式会社

取締役
東京営業所長

荻 野 武

（市島町出身）

本 社 名古屋市千種区若水町 3—26
電話 052（761）6181番（代表）

東京営業所 東京都中央区銀座 7 丁目 14—3
電話 03（543）8106番（代表）

大阪営業所 大阪市西区鞠本町 2 丁目 4 番10号
電話 06（443）6665番

仙台営業所 仙台市高松 2 丁目 1 番15号
電話 0222（73）5724番

日本海運振興會會長

有 田 喜 一

東京都千代田区平河町二丁目四番
電 話 (二六三) 九四一七番
東京都世田区成城四ノ一ノ一五
電 話 (四八三) 一二〇九番
兵庫県氷上郡氷上町谷村
電 話 〇七九五八(二〇〇〇)八番

綜 合 建 設 業

建設大臣許可第 233 号

春日建設株式会社

代表取締役 伴 仲 信 次

専務取締役 伴 仲 信 義

(春日部出身)

東京都千代田区飯田橋 2 丁目 9 番 3 号

電 話 東 京 (264) 4 0 1 1 番 (代表)

日本メキシコ協会会長
日本バレーボール協会会長
アジアバレーボール連盟名誉会長
国際バレーボール連盟副会長
日商岩井株式会社相談役

西川 政一

(住) 東京都杉並区善福寺二ノ三五ノ一六
電話 (三九〇) 一三一六番
(寓) 静岡県伊豆高原
電話 〇五五七―五三一―二五六〇番

学校法人国学院大学理事
国学院高等学校々長
学校法人国学院大学幼児教育専門学校々長
財団法人日本私立大学連盟理事
財団法人私学研修福祉会理事

小林 武治

東京都武蔵野市境南町一―三〇―二〇
電話 〇四二二(二三) 四七九六番

調布市社会福祉協議会理事

調布市豊かな老後のための市民会議実行委員
老人問題研究所

木村 つた江

東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-5

電話 東京 (300) 1505番

株式会社 つるや洋装店

株式会社 東逗子駅前ビル

東海産商株式会社

代表取締役 小 谷 正 己

逗子市逗子 1-6-4

電話 0468. 71. 3075

71. 6449

電子器機部品専門商社

株 式 会 社 三 誠

取締役社長 足 立 誠 一

東京都千代田区外神田 3—2—13

電 話 (255) 1 2 5 1 番 (代表)

照明ガラス・建材ガラス
食卓用ガラス器

島田特殊硝子株式会社

取締役社長 栗原重次 (国領出身)

東京都港区新橋 3 丁目 22 番 2 号

電話 03 (433) 6151 番 (大代表)

株式会社 近藤写真製版所

取締役社長 近 藤 勇 夫
(国領出身)

東京都新宿区下宮比町8番地
電 話 (260) 6 2 8 1 番 (代表)

＜ のびのびベビー 子供のファッション ＞



(株)



〒158 東京都世田谷区瀬田 1-22-19
TEL 03(700) 3 1 2 1 (代)



チャウチョ 白 様

〒158 東京都世田谷区玉川台 1-13-12
TEL 03(708) 1 1 5 1 (代)

代表取締役 山本清士 (春日町小多利)

明治生命保険相互会社
本社東京直属

足立正

東京都千代田区丸の内二丁目一番二号
電話(二八三)八一七二五番 直通

トヨーサッシ株式会社
東洋サッシ工業株式会社

取締役会長 足立徹

東京都葛飾区細田三ー八ー九
電話(〇三)六七二一一番
(内線五〇三番)

植木紙工所

代表者 植木一夫

東京都文京区白山三丁目一ノ十三
電話(八一)八五七三番

萩野定一郎

事務所 東京都千代田区丸の内二ノ二
(丸ビル六階六二五区)
電話(二二)七〇六二番
鎌倉市御成町十七ー一十四番
電話〇四六七二二一六七四番

自宅

日本学士院会員
東京理科大学学長

理学博士 小谷正雄

自宅 東京都新宿区神楽坂一ノ三
電話東京(二六)四二七一代表
東京都大田区山王三ノ三六ノ四
電話東京(七七)六六六五二

坂上勝郎

中野区白鷺三一五一一
電話(〇三)三三九一〇八二七番

須 原 清

東京都中野区南台五の三〇の六
電話 (三八一) 一六二二番

谷 垣 正 雄

東京都杉並区高井戸西一―二四―一七
電話 (三三三) 六一六〇番

高見産婦人科

医学博士 高見嘉都司

東京都板橋区熊野町四〇番地
電話 (九五六) 〇六〇〇番

日本ビクター株式会社

専務取締役 西垣秀正

東京都中央区日本橋本町四丁目一番地ノ一
電話東京 (〇三) (二四) 七八二番 (大代表)

高見齒科

高見幸男

〒176 練馬区錦町二―八―三
電話 九三三―六七三番

黒川木徳証券株式会社

投資顧問 能勢次郎

自宅
東京都中央区日本橋兜町一ノ八
電話東京 (六六六) 一四八一 (代表)
千葉市穴川二ノ三ノ六
電話〇四七二 (五) 三七八二番

黒川木徳証券株式会社

畑 秀 夫

本社 東京都中央区日本橋兜町一丁目八番地
電話東京(666)一四八一(代表)一四八九番

波 多 洋 三

文京区春日二一七一二
電話(〇三)八一一二八六〇番

日本育英会 東京支所

支 所 長 藤 田 正 雄

〒162 東京都新宿区市ヶ谷本村町四二番地
電話東京(03)二六九一四二六(大代表)
川崎市多摩区王禅寺六七八一四
電話(〇四四)九五四一四九五七番
自宅

松 山 幸 逸

(竹永)
171 東京都豊島区西池袋四一八一八
電話 九七一―五七四三番

三 宅 良 夫

東洋ゴム工業株式会社

曹 禅 寺 住 職

村 上 大 憲

東京都大田区池上七丁目二番十号
電話 〇三―七五一―二〇三五番

丸三証券株式会社
東京店営業第一課

課長 安田 功

103 東京都中央区日本橋二丁目五番二号
電話 大代表 二七二局五二二一番

山中 一朗

227 横浜市緑区美しが丘三一四六一一
電話 (〇四五) 九一一—四四九三番

横山産業株式会社

取締役社長 横山 幸三

東京都江戸川区中央一—三四—六
電話 (六五五) 三九九一 代表

松尾 フ ル ー ツ

上 田 鉄 太 郎

(春日町野山出身)

〒102 東京都千代田区麴町6丁目

(国電四ツ谷駅前)

電話 03 (261)—2830 自宅 (264) 5060—1店舗

図書出版



株式
会社

二 玄 社

図書目録進呈

日本名跡叢刊・全100巻：平安～江戸期の名筆を精印
書跡名品叢刊・全200巻：中国歴代の名筆を原大に精印
東洋の名筆・既刊30点：日中書画の名作を原寸大に複製

名跡六体大字典・書源／和漢書道史／書の歴史・中国篇
ペン書法／小学生の書道講座／書道技法講座・既刊32冊
書道基礎講座／書道講座・全8巻／中国書論大系・全12巻
文房清玩・全5冊／日本金石図録／文士の筆跡・全5巻
高村光太郎書／秋草道人墨跡／副島種臣書／斎藤茂吉書
古名硯・全5冊／新羅高麗の仏像／法隆寺五重塔の塑像
中国の印章／日本の篆刻／日本の古印／呉昌碩／斎白石
池大雅／中国美術の研究／日本における中国文学／ほか

<どう考えるか> シンポジウムシリーズ 既刊 11 冊
ニヒリズム／知識と人間／科学というもの／悪・死・倫理
／近代の成立と中世／文化・経済・国家／失われた教育／
中国・今昔／自然と人間／母なるもの／ヒューマニズム

<月刊雑誌> CAR GRAPHIC: A4 判 毎月1日発売

<年鑑別冊> ROAD TEST／外国乗用車／国産乗用車
世界の自動車・全60冊／世界名車全集・全8集／その他

〒101 東京都千代田区三崎町2-4 代表取締役社長

電話 (263)6051～4／(239)0141～5 渡辺隆男 (氷上町)

☆フランス菓子☆スイス菓子☆ドイツ菓子☆

BASEL

●洋菓子・喫茶・食事

国立駅南口店 (銀座通り)

Tel 0425-75-9791

●洋菓子・コーヒー

八王子駅北口店

Tel 0426-44-3583

●洋菓子・喫茶

京王八王子駅前店

Tel 0426-42-8424

●洋菓子・工場

豊田駅前通り店

Tel 0425-81-0824

●ワイン・ビアレストラン

八王子三崎町店

Tel 0426-22-5528

●洋菓子・アイスクリーム工場

奥多摩バイパス店

Tel 0425-44-3911

●洋菓子

多摩川店 (読売ランド下)

Tel 044-944-2214

有限会社バーゼル洋菓子店 社長渡辺圭造

美味無比
木の实酒

栗の三年酒

くり

さん

ねん

しゅ

この木の实酒「小鼓くりの三年酒」は、純粹の丹波産栗の实、梅の实など山野の木の实を原料として秘釀したもので、常用すれば胃腸を整え健康と美容と活力を増進します。

ストリートでお飲みいただきますと、さわやかな梅の香りがひろがり、あと口にはコクのある栗の味が残ります。

お正月のお屠蘇には、縁起のよい「小鼓栗の三年酒」をお用い下さい
キット好評です。

◆丹波焼壺詰
◆徳用びん詰

(1、
35 50
00 00
00 00
ml ml ml ml)

小鼓の
西山酒造場

氷上郡市島町中竹田
電話(七九六)⑥〇三三二代

画期的！経費処分の出来る 大型経営者保険誕生

わずかな掛金で **500万円** から **3億円** まで

日本で始めて **A I U** と **大同生命** が提携

- 非常に安い掛金で、しかも全額経費処分が出来ます。
- 一度の診査で、10年契約。65才まで加入出来ます。
- 掛捨てですから通貨不安、物価変動に強い新時代の保険です。
- 経営者に病気・災害・天災の事故のあった時、企業をがっちり守ります。
- その家族にも高額の退職慰労金が保償されます。
- 役員の任期も考えると、この保険は理想的な保険です。

一例D型

死	事故による時	5000万円	年 令	保険料 (D型)
亡	病気による時	2500万円	35才	月払 17,137円
休業補償	入院の時	1日につき 7500円		
	入院しない時	〃 2500円	40才	〃 19,637円
	病気入院 (20日以上)	〃 2500円	45才	〃 23,887円
	傷害医療費50万円迄 病気手術 5万円		50才	〃 30,387円
	傷害の程度により病気療疾の保険金			

ご説明に伺いました際は粗品を進呈させていただきます。

A I U 総合代理店
大同生命代理店

永愛友商事(株)

〒107 東京都港区赤坂3-1-2 A I U 赤坂ビル
TEL 03 (585) 0740代 代表者: 前田和市

GRUE BONNE 高級婦人服製造卸
つるや産業株式会社

取締役社長 足立三治

東京店 品川区西五反田 7—22—17番地
東京卸売りセンター12階

電話 (03) 494局3285～7番

本社 川崎市中原区新丸子 7 0 1 番地

電話 (044) 722局6371 (代表)

社長室直通 711局3324